

# 2026年3月期 決算 補足説明資料

2026年5月28日

◆ 人と素材と技術の力で「感動体験」を。



# EXECUTIVE SUMMARY

	概要	ポイント
2026年3月期 通期業績	<ul style="list-style-type: none"><li>●売上高 : 17,446百万円 (前期比+5.1%)</li><li>●営業利益 : 822百万円 (前期比+68.5%)</li></ul> 各段階利益はいずれも前期比で増加 業績予想を超過	<ul style="list-style-type: none"><li>• 売上高は、超硬素材の販売などが好調に推移した結果、業績予想に対してわずかに未達となったものの、前期比で増加</li><li>• 営業利益は、売上高の増加、効率化の施策による外注加工費の削減および電力燃料費の減少により、前期比で増加</li></ul>
2027年3月期 業績予想	<ul style="list-style-type: none"><li>●売上高 : 26,000百万円 (前期比+49.0%)</li><li>●営業利益 : 700百万円 (前期比-14.9%)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 経営環境の変化の影響を背景に、「中期経営計画2026」の最終年度となる2027年3月期の計画値を修正</li><li>• 売上高は、原材料費高騰の価格転嫁のための価格改定により、前期比で増加の見込み</li><li>• 営業利益は、原材料費高騰の影響および価格改定による販売数量の減少を見込み、前期比で減少すると予想</li></ul>

## 経営環境の変化

- 昨年2月に中国がタングステンを含む重要鉱物の輸出管理に関する公告を発表
  - 今年1月に中国が日本に対するデュアルユース（軍民両用）品目の輸出管理を強化する旨（商務部公告2026年第1号）を、2月には日本企業20社を輸出規制リストに追加しデュアルユース製品の輸出を禁止する旨（商務部公告2026年第11号・第12号）を発表、タングステンを含む重要鉱物の管理を引き続き強化
- ⇒ タングステンの需給や価格に影響が及びやすい状況が続いている

## ダイジェット工業株式会社と重要鉱物であるタングステンとコバルトの使用量を削減した合金に関する業務提携の検討を開始

ダイジェット工業と、各々が開発した重要鉱物であるタングステンとコバルトの使用量を削減した合金に関して、両社の販売ネットワークを活用した販路拡大に向けた検討を開始



**【サーメタル】**  
タングステンとコバルト  
を使用しない合金

使用用途：  
絞り型・粉末成形金型  
耐熱用治具



**【サステロイ STN30】**  
タングステンとコバルトの  
使用量を90%削減した合金

使用用途：  
回転工具・混錬工具

互いの強みとリソースを最大限に活用することで、地政学的リスクの低減と  
収益拡大を図り、相互の企業価値向上を目指す

# AGENDA

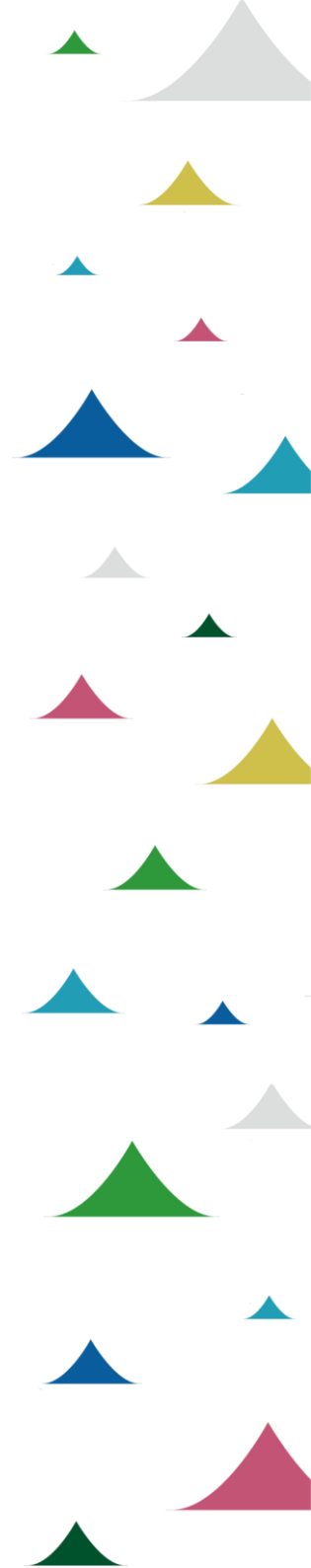
---

1. 2026年3月期 業績概要 P.04
2. 「中期経営計画2026」進捗と  
2027年3月期の重点施策の取り組み P.12
3. 2027年3月期 業績予想 P.22
4. 資本コストや株価を意識した経営の実現 P.28
5. APPENDIX P.31



# 01

## 2026年3月期 業績概要



連結売上高 17,446百万円 (前期比+5.1% 業績予想比-1.3%)

連結営業利益 822百万円 (前期比+68.5% 業績予想比+37.1%)

- 売上高は、超硬素材の販売等が好調に推移した結果、業績予想に対してわずかに未達となったものの、前期比で増加
- 営業利益は、売上高の増加、効率化の施策による外注加工費の削減および電力燃料費の減少により、前期比で増加

売上高	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 高圧機器関連や冷間圧延関連の工具等の販売が好調</li> <li>■ 製缶金型・電池関連金型やモーターコア用金型の販売が好調</li> <li>■ 超硬素材の販売が好調</li> </ul>
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 混錬工具（半導体向け）等の超硬以外の製品の販売が低調</li> </ul>
利益	増加要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 売上高の増加</li> <li>■ 効率化の施策による外注加工費の削減</li> <li>■ 電力燃料費の減少</li> </ul>
	減少要因	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 原材料価格の高騰</li> <li>■ 人財投資の拡充</li> </ul>

# 2026年3月期 連結業績サマリー

- 売上高は前年同期比で増加、業績予想にわずかに未達
- 各段階利益は前年同期で増加、予想を超過

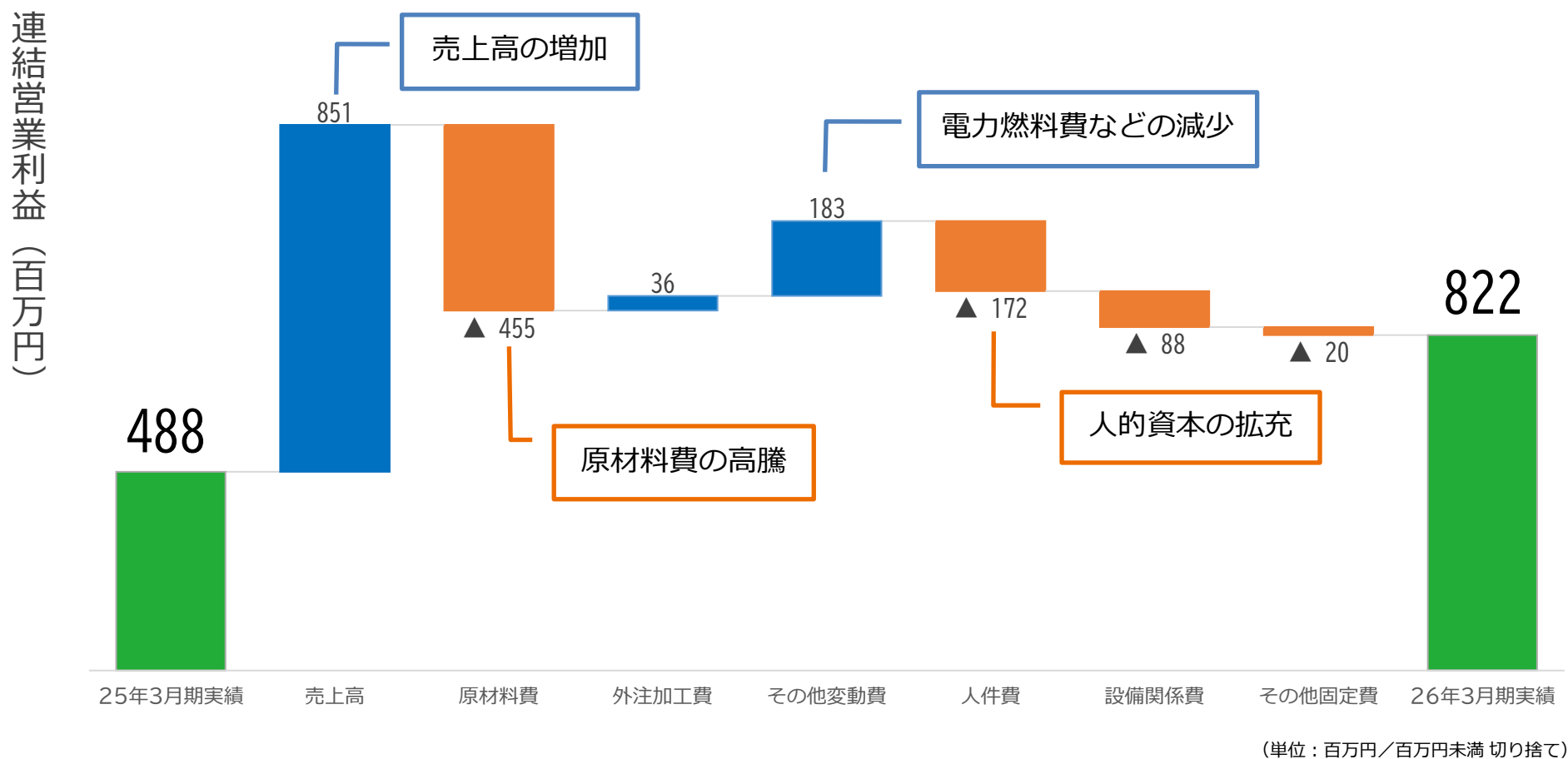
(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	前期比増減率	業績予想	業績予想 進捗率
売上高	16,595	<b>17,446</b>	5.1%	17,670	98.7%
営業利益	488	<b>822</b>	68.5%	600	137.1%
(営業利益率)	(2.9%)	(4.7%)	(60.3%)		
経常利益	603	<b>883</b>	46.5%	700	126.2%
(経常利益率)	(3.6%)	(5.1%)	(39.3%)		
親会社株主に帰属する 当期純利益	426	<b>573</b>	34.6%	460	124.6%
(当期純利益率)	(2.6%)	(3.3%)	(28.0%)		
1株当たり 当期純利益	21.42円	<b>29.03円</b>	35.5%	23.12円	-
自己資本比率	81.0%	<b>79.6%</b>	-	-	-

(百万円未満 切り捨て)

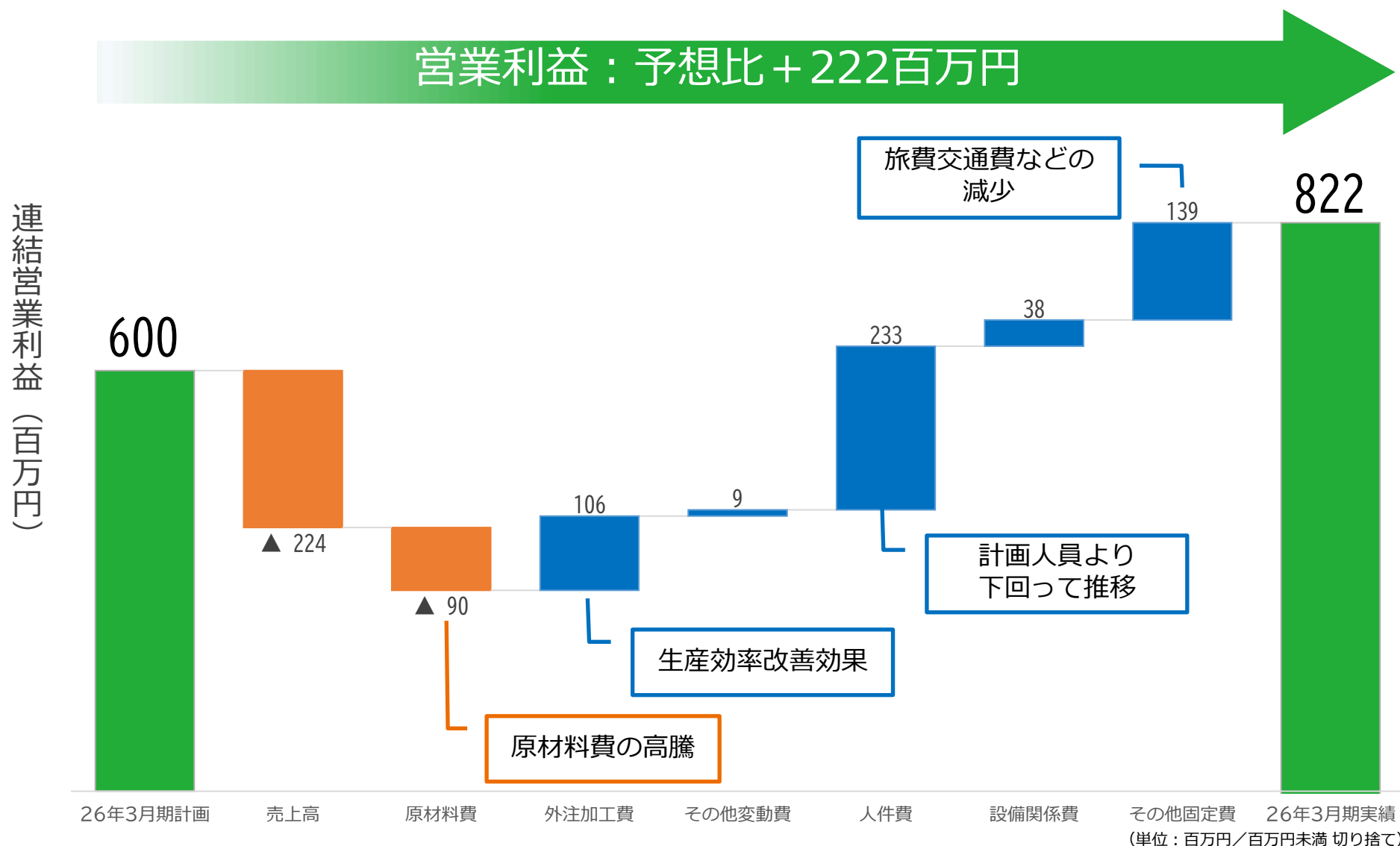
# 2026年3月期 連結営業利益 増減要因（前期比）

## 営業利益

営業利益は、売上高の増加、効率化の施策による外注加工費の削減および電力燃料費の減少により、前期比で増加



# 2026年3月期 連結営業利益 増減要因（予想比）



【2026年3月期 利益予想の前提条件】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：375ドル/10kg
- ②為替：145円/米ドル

【2026年3月期 実績】

- ①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：854ドル/10kg (2025年度平均)
- ②為替：150円/米ドル (2025年平均)

# 2026年3月期 財務の状況 連結貸借対照表 増減分析

- 有価証券が1,000百万円減少したものの、原材料及び貯蔵品が546百万円、売掛金が344百万円、仕掛品が158百万円増加したことにより、流動資産は161百万円増加
- 機械装置及び運搬具（純額）が94百万円、投資有価証券が72百万円、建設仮勘定が64百万円増加したものの、建物及び構築物（純額）が302百万円減少したことにより、固定資産は80百万円減少

## 財務状況

2026年3月末 ※ ( ) は2025年3月末との差

資産 25,684百万円 (80百万円)	負債 5,239百万円 (383百万円)
	純資産 20,445百万円 (-302百万円)

単位：百万円	2025年3月末	2026年3月末
流動資産	14,909	15,070
固定資産	10,694	10,613
資産合計	25,603	25,684
流動負債	3,395	3,885
固定負債	1,460	1,353
負債合計	4,855	5,239
純資産合計	20,748	20,445

## 負債・純資産・自己資本比率

2025年3月末	2026年3月末
4,855百万円	5,239百万円
81.0%	79.6%
20,748百万円	20,445百万円

負債	純資産	自己資本比率
現金及び預金	7,130百万円	
原材料及び貯蔵品	1,845百万円	
建物及び構築物（純額）	4,431百万円	
機械装置及び運搬具（純額）	2,199百万円	
短期借入金	22百万円	
長期借入金	-百万円	
退職給付に係る負債	1,322百万円	
利益剰余金	19,463百万円	
その他包括利益累計額	1,148百万円	

(百万円未満 切り捨て、自己資本比率は小数点第2位を四捨五入)

## 2026年3月期 キャッシュ・フロー計算書

営業CF：税金等調整前当期純利益（885百万円）・減価償却費（1,074百万円）

投資CF：有形固定資産の取得による支出（829百万円）

定期預金への預入による支出（793百万円）

定期預金への払戻による収入（980百万円）

財務CF：配当金の支払いによる支出（794百万円）

：自己株の取得による支出（310百万円）

(単位：百万円)	2025年3月期 実績	2026年3月期 実績	増減
営業活動によるCF	1,800	1,159	-640
投資活動によるCF	-849	-723	125
フリーCF	951	436	-514
財務活動によるCF	-659	-1,126	-466

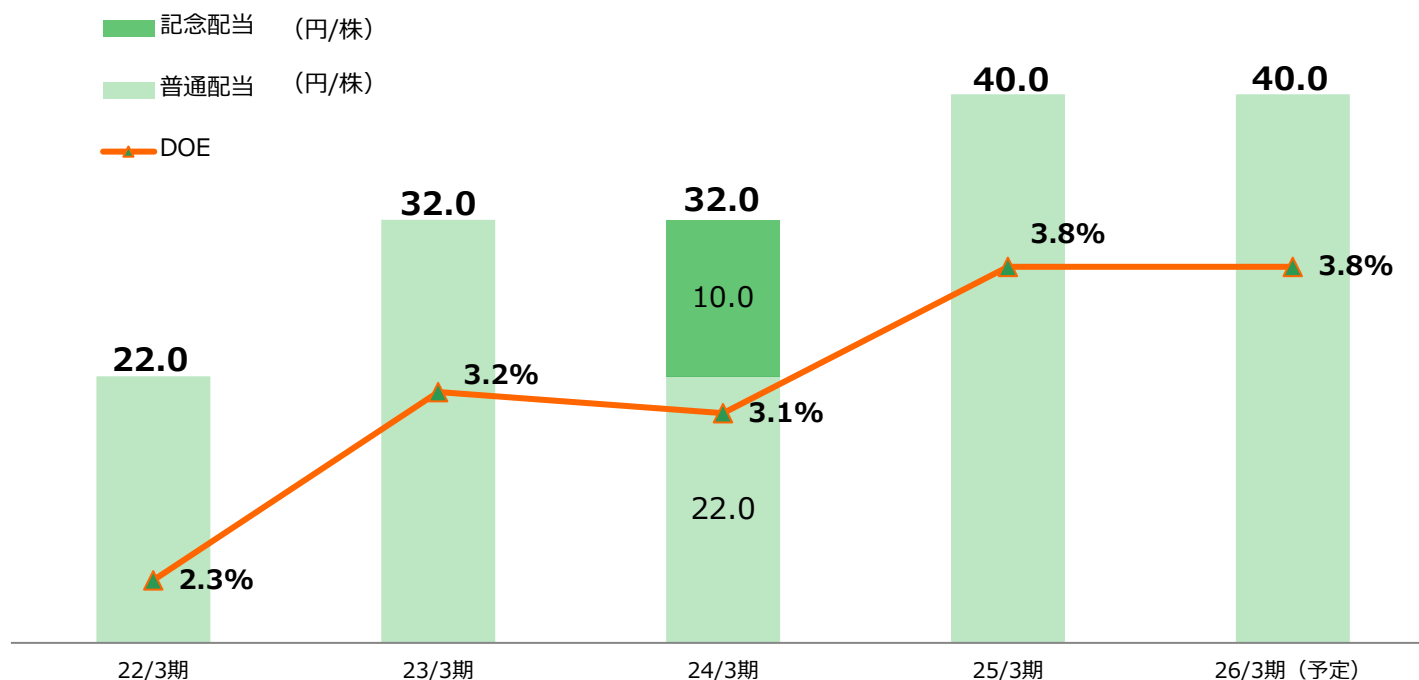
(百万円未満 切り捨て)

# 2026年3月期 株主還元・配当

2026年3月期の配当は前期の配当と同額の1株当たり40円を予定

年間配当金  
**40円**

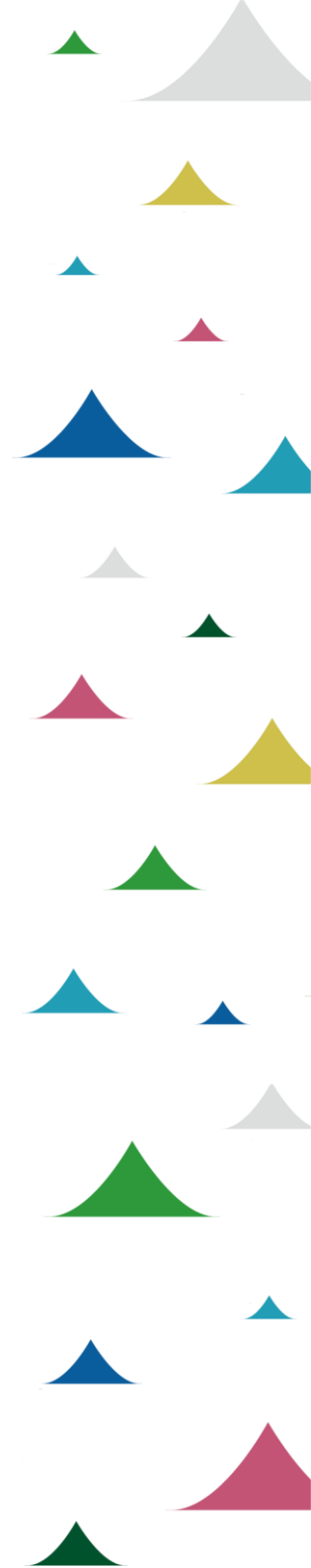
- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 株主還元施策として自己株式の取得を実施  
(2025年8月12日公表、取得期間8月18日～12月4日)



※2026年3月期末配当は、当社第70回定時株主総会の承認を得た場合の1株当たりの配当金となります。

# 02

## 「中期経営計画2026」進捗と 2027年3月期の重点施策の取り組み



## 変化に対応できる企業体質への転換

### ① 経営基盤の強化

サステナビリティ経営とDX化を軸に組織力を高め、経営判断を迅速化

### ② 生産性向上・業務効率化

各部門における自動化・省力化、DX化等による業務効率化を推進

### ③ 海外事業の飛躍

海外子会社と日本からの直接輸出の両輪で海外売上拡大を図る  
アジア地域でのシェア拡大に加え、北米/インドにおける市場開拓を促進

### ④ 脱炭素・循環型社会への貢献

脱炭素・循環型社会の形成に貢献する製品を積極的に開発・市場投入

### ⑤ 新規事業の確立

100年企業を目指し、新規事業の専門組織を立ち上げ、  
新事業シーズの事業化を加速

既存事業領域

新規事業領域

利益率向上

売上拡大

国内事業は成長の基盤（安定的に成長）、成長を牽引するのは海外事業  
将来の成長基盤の育成として新事業の実現という方向性

# 重要施策の進捗と

## 2027年3月期の取り組み ①経営基盤の強化

### 2026年3月期 進捗

- 2025年6月 監査役会設置会社から監査等委員会設置会社に移行【ガバナンス強化】
- 2025年7月 100年企業を目指して、グループ企業理念を見直し、ビジョン「人と素材と技術の力で『感動体験』を。」を策定【組織力強化】
- 2026年3月 ワークフローシステムを導入・運用開始、業務効率化を推進【業務効率化】

### 2027年3月期 取り組み

- 2026年6月24日より、経営体制の一層の強化・充実を図るため、代表取締役2名体制へ移行

会長の春田は経営戦略の策定および対外交渉・監督を担い、社長の津田は執行責任者として年度計画・事業戦略の策定と実行を担当

それぞれの役割と責任を明確にしつつ、両名が一体となって経営を推進することで経営判断の質とスピードを高める



写真右：代表取締役会長 就任予定  
春田 善和  
(現職:代表取締役社長)

写真左：代表取締役社長 兼 海外事業本部長 就任予定  
津田 雅宣  
(現職:常務取締役 海外事業本部長)

# 重要施策の進捗と

## 2027年3月期の取り組み ②生産性向上・業務効率化

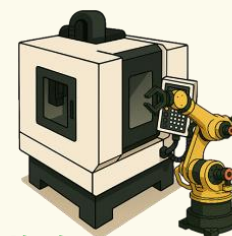
### 2026年3月期 進捗

【自動化】 予定どおり全案件の自動化投資（1億6000万円）を完了

#### 熊本製造所

- 冶金工程の成形加工機に産業用ロボットを追加導入、1月より本格稼働 **省人化を推進**
- 研磨加工作業に自動化ロボットを昨年8月よりテスト導入、昨年11月より本格稼働 **省人化を推進**
- 部品どりを自動で最適化するシステムを昨年7月より本格稼働 **原材料の使用効率UP**

成形加工機



産業用ロボット

#### 岡山製造所

- 自動床洗浄ロボットを昨年5月より導入、2月より他拠点に横展開 **間接時間を削減・省人化を推進**

#### 郡山製造所

- 冶金工程の粉末成形プレス機にロボットアームを追加、昨年12月導入、テスト稼働中 **省人化を推進**  
焼結用カーボンケースへの充填作業を自動化

#### 秦野工場

- 研削加工に自動化ロボットを導入、2月より本格稼働 **省人化を推進**
- プラグ製作工程に自動ろう付装置を導入、1月より本格稼働 **品質の安定化・生産性向上**

2026年3月期導入案件  
自動化稼働率 **40%**

### 2027年3月期 取り組み

冶金工程のさらなる自動化により、**省力・省人化を推進**

#### 岡山製造所

- 郡山製造所の導入事例を横展開し、NC旋盤×ワークチェンジャーロボットを導入  
(導入予定：5月)

#### 郡山製造所

- 100t自動プレスロボットを導入、材料粉末の充填⇒圧粉成形⇒取出し整列を自動化  
(導入予定：8月)

2027年3月期上期中  
稼働率 **100%**に向上



NC旋盤×ワークチェンジャーロボット  
イメージ

# 重要施策の進捗と

## 2027年3月期の取り組み ③海外事業の飛躍

### 中国

富士模具：販売拠点

#### 2026年3月期 進捗

東莞支店の知名度向上と拡販を目指し華南エリアを中心に積極的に展示会に出展  
光学機器関連は、車載およびスマホ向けが堅調、監視カメラ向け需要回復も重なり好調に推移

#### 2027年3月期 取り組み

既存顧客に加え、高付加価値製品の販売に注力

### アセアン

FUJILLOY THAILAND：生産/販売拠点

FUJILLOY INDONESIA：生産/販売拠点

FUJILLOY MALAYSIA：販売拠点

#### 2026年3月期 進捗

タイ：メインの輸送機器が芳しくない中で、輸送機器以外の製品群の拡販を強化  
インドネシア：欧米系・現地法人向けに電池関連を拡販  
マレーシア：半導体関連が低調

#### 2027年3月期 取り組み

タイ：他業種への拡販のために生産設備を増強  
インドネシア：第2の都市スラバヤでの営業活動を強化  
マレーシア：輸送機器関連を中心に開拓

### 北米

#### 2026年3月期 進捗

売上拡大を目指し、新規マーケットの獲得のため、市場調査を継続

#### 2027年3月期 取り組み

自前主義を脱却し、新しいビジネスモデルを検討中

### インド

FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED：販売拠点

#### 2026年3月期 進捗

事業再開プロジェクトを発足、市場調査と現地拡販活動を強化  
1月に展示会出展

#### 2027年3月期 取り組み

4月1日より現地のエージェントと契約  
デリーとベンガルールを中心に営業開始

2027年3月期目標  
海外売上比率：25%以上

2026年3月期  
海外売上比率：22.7%  
(2025年3月期：19.5%より3.2ポイントUP)

# 重要施策の進捗と

## 2027年3月期の取り組み ④脱炭素・循環型社会への貢献

### 取り組み ▶ 脱炭素・循環型社会の形成に貢献する成長分野に向けた製品を開発

当社のコア技術である粉末冶金技術と超精密加工技術を軸に  
成長分野に向けた製品を開発・市場投入

分野	概要	進捗状況	販売時期(計画)		
			25年3月期	26年3月期	27年3月期
次世代エネルギー	① 水素発生用触媒・電極(PME) ② 金属空気二次電池用触媒・電極(PME)	①客先評価中	----->	----->	----->
		②量産化検討中	----->	----->	----->
次世代光通信	光通信用コネクタ-金型	販売中	----->	----->	=====>
次世代自動車	①高精度ガラス成形用金型素材(TR合金)ラインナップ化 ② 放電加工対応超硬合金(VG51) ③アモルファス合金に適した超硬合金	①新材料開発中	----->	----->	=====>
		②販売中	----->	=====>	=====>
		③客先評価中	----->	----->	=====>
省資源	① 省タングステン・コバルト合金(STN30) ②省タングステン・コバルト合金ラインナップ化 ② 超硬合金の新製造プロセスの検討	①販売中	----->	=====>	=====>
		②開発中	----->	----->	----->
		③開発中	----->	----->	----->

**粉末冶金技術**  
高度な粉末冶金技術による新材料開発



**超精密加工技術**  
様々なニーズに応える加工技術の探求

-----> 点線矢印 : 開発中  
-----> 実線矢印 : 客先評価中  
=====> 二重線矢印 : 販売中

## 電気化学反应用 金属空気二次電池用触媒・電極(PME※)

※Powder Metallurgy Electrode (粉末冶金電極)

### 市場投入フェーズ

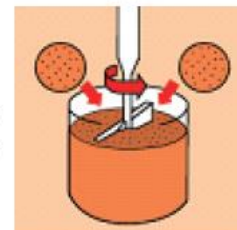
開発開始

客先評価中

2025年“超”モノづくり部品大賞「生活・社会課題ソリューション関連  
部品賞」を受賞 (モノづくり日本会議/日刊工業新聞社主催)



超高压合成技術  
(触媒開発)



粉末冶金技術  
(電極化)



高性能触媒電極  
(PME)

- 水の電気分解により水素を生成する装置などに用いられる電極
- 水の電気分解による水素製造の際、必要な消費電力を従来比20%削減
- 触媒はカルシウム、銅及び鉄の酸化物 (貴金属フリー)

2027年3月期 取り組み

2028年3月期の製品化を目指し、量産化を検討中

### 次世代光通信向け「光ファイバアレイ」用金型

超精密加工技術を活かし、データセンターなどの次世代光通信で使用される「光ファイバアレイ」用金型へ展開

### 市場投入フェーズ

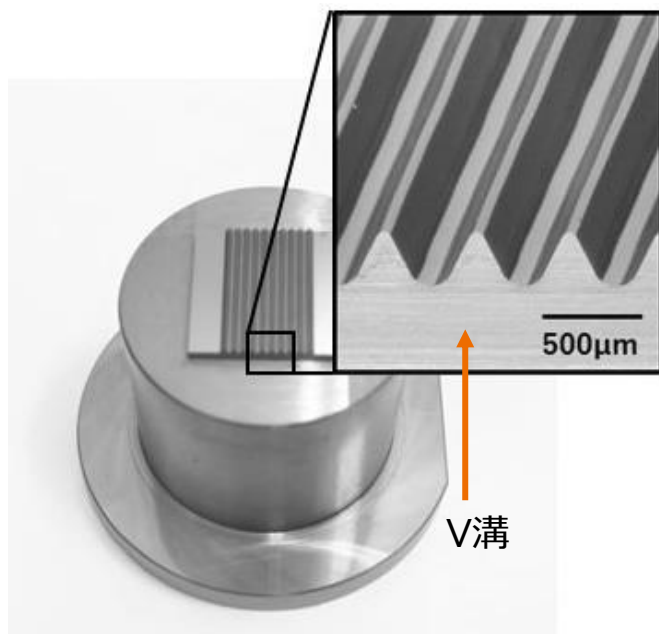
開発開始

販売中

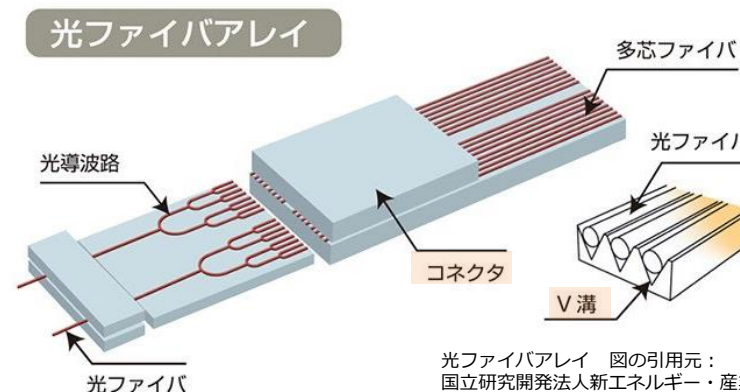
- 大容量高速通信に欠かせない極細の光ファイバをつなげる「光コネクタ」用金型を最先端の超精密加工技術により寸法精度0.1 $\mu\text{m}$ 以下※1で製作

※1 寸法精度0.1 $\mu\text{m}$  (0.0001mm) とは？

髪の毛の1000分の1のズレも許されないレベルの加工精度



「光コネクタ」用金型



光ファイバアレイ 図の引用元：  
国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

- ◆ 光ファイバと光ファイバの“つなぎ目”にあたる「光コネクタ」の表面には「V溝」とよばれる細い溝が数十本刻まれている。その溝のなかにケーブル内から枝分かれした光ファイバが1本ずつはまるようになってる
- ◆ コネクタで接続された光ファイバの軸がわずかにずれるだけで、データ伝送量に損失が生じるため、0.1 $\mu\text{m}$ の誤差も許されない高精度が求められる

2027年3月期 取り組み

光ファイバアレイ用金型の超精密加工開発と量産開始

### 省タングステン・コバルト合金【サステロイ STN30】

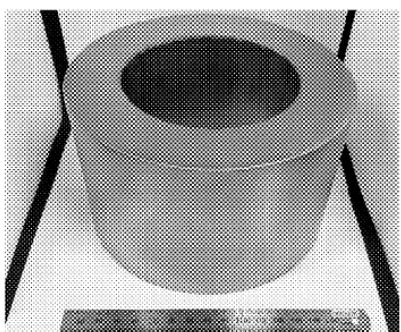
- 鋼程度の比重、超合金と同等・鋼の4倍の耐摩耗性を実現し、地政学的リスクが懸念されるレアメタルの使用量を大幅削減した新合金【サステロイ STN30】を2025年10月より本格販売
- ダイジェット工業との業務提携を検討中

### 市場投入フェーズ



### 新合金【サステロイ STN30】の特長

# 耐摩耗性、鋼の4倍



富士ダイスは汎用超合金を同等で鋼の4倍の耐摩耗性を持つ新合金を開発した。ニオブ炭化物を主成分とし、金属部分の摩耗を極力抑制する材料設計と、通常焼結技術を用いた結合剤の最適制御により、混練工員対応と粉砕工員対応の両条件下で優れた耐摩耗性を実現した。回転工員や混練工員など向けに売り込み、2025年度に1,000万円の売り上げを目指す。

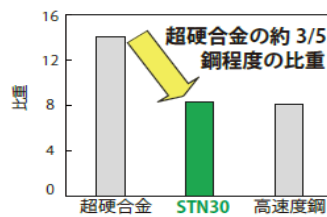
# 富士ダイス、新合金開発

10%濃度の塩酸の場合、同濃度の硫酸化ナトリウムと3%濃度の塩化ナトリウムの場合はほぼ腐食が見られなかった。また、超合金の約5分の3と鋼程度の比重のため、回転工具に使うと、装置への負荷軽減による電力削減などが見込める。研削加工には汎用の超合金と同等で、放電加工もできる。

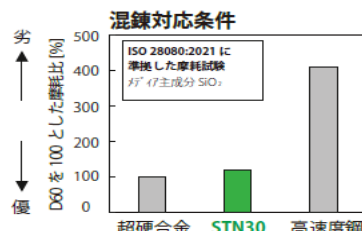
20日にポルトメッセなどで開催する名古屋オートモーティブワールド」に出展し、新合金「サステロイ STN30」を初展示する。

【2025年10月27日付「日刊工業新聞」】

#### ①軽量

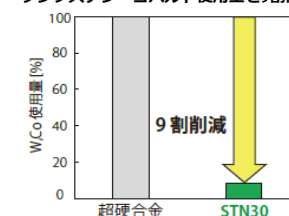


#### ②高耐摩耗性



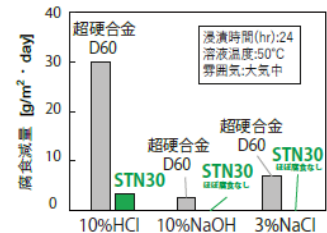
#### ③省資源

タングステン・コバルト使用量を9割削減



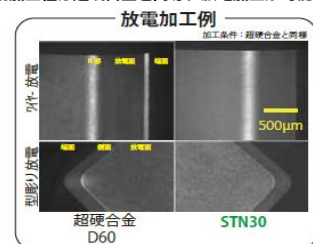
#### ④高耐食性

一般超合金より腐食しにくい



#### ⑤優れた加工性

研削加工性は超合金と同等、放電加工が可能



#### ⑥磁性を有するため

磁力選別が可能

### 2027年3月期 取り組み

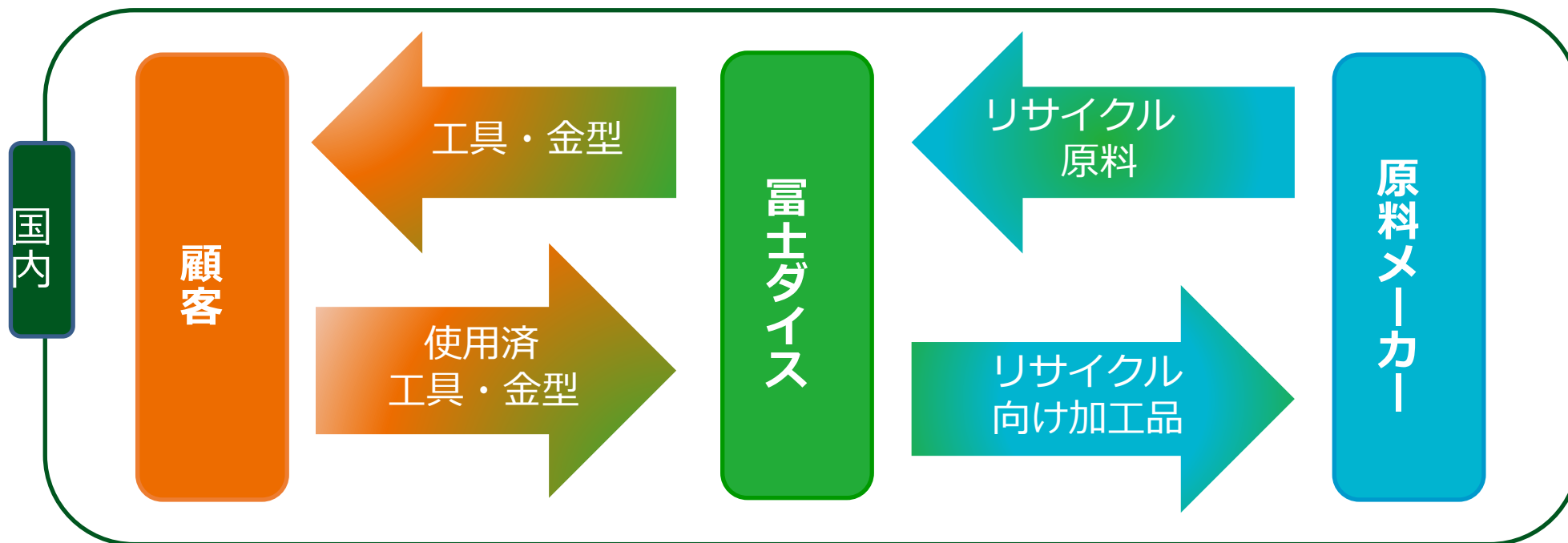
超硬耐摩耗材の代替としての需要増を見込み、ラインナップの拡大を図る

# 重要施策の進捗と

## 2027年3月期の取り組み ⑤新規事業の確立

### 2026年3月期 進捗 超硬耐摩耗工具・金型のリサイクル事業を開始

- スクラップ回収に必要な各種申請手続きを完了、モデル地域を定め、昨年10月より試験的な回収を開始、対象地域を全国に拡大し、積極的に回収活動を実施中
- 顧客網を活用し、超硬耐摩耗工具・金型の国内循環型リサイクルの実現を目指す
- 限りあるレアメタルを有効活用し、原料調達リスクを低減

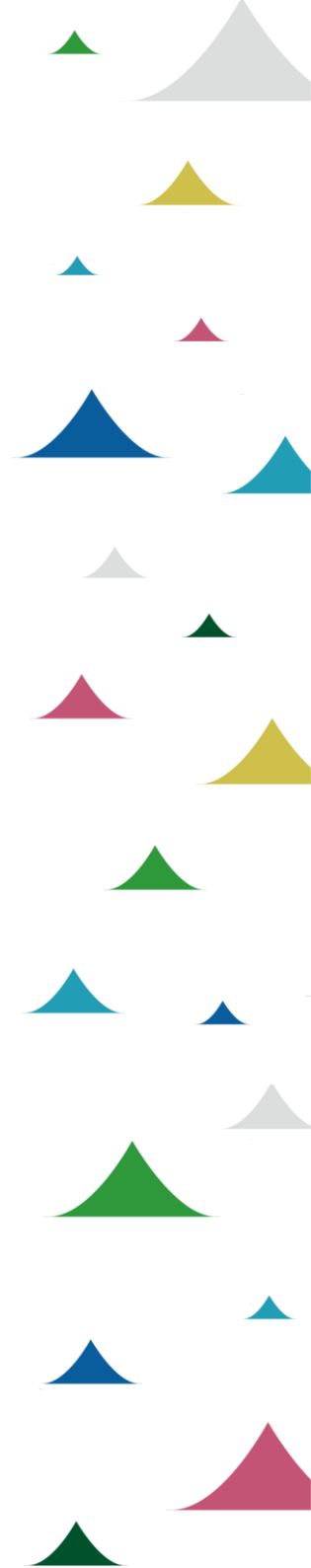


### 2027年3月期 取り組み

- 使用原料の10%程度をリサイクル原料で賄うことを目指す
- 新規事業の早期実現に向けたM&A、業務提携の実施を検討中

# 03

## 2027年3月期 業績予想



## 当社を取り巻く経営環境への対応

超硬合金の主原料となるタングステンの世界的供給不足や価格の変動、中東情勢の緊迫化など不確実性が高まる経営環境に対応すべく、材料利用の効率化やリサイクル、代替材料の研究、調達先の複線化および価格改定を着実かつ迅速に推進



銅タングステン合金（CE08）の受注を一時的に見合わせているが、メインの超硬合金製工具金型は現時点では、ほぼ計画通り生産・出荷を実施

# 2027年3月期 業績見通し

- 「中期経営計画2026」最終年度の計画値を経営環境の変化を踏まえて変更
- 売上高は、原材料費高騰の価格転嫁のための価格改定により、前期比で増加を見込む。
- 営業利益は、原材料費高騰の影響および価格改定による販売数量の減少を見込み、前期比で減少すると予想、前期比14.9%減の7億円を見込む。

営業利益  
**7.0億円**  
(前期比14.9%減)

(単位：百万円)	2026年3月期 実績	2027年3月期 2Q業績予想	2027年3月期 業績予想	期末における 前期比増減	期末における 前期比増減率
売上高	17,446	12,000	26,000	8,553	49.0%
営業利益 (営業利益率)	822 (4.7%)	390 (3.3%)	700 (2.7%)	-122 (-2.0%)	-14.9%
経常利益 (経常利益率)	883 (5.1%)	420 (3.5%)	780 (3.0%)	-103 (-2.1%)	-11.7%
親会社株主に帰属する 四半期/当期純利益	573	280	520	-53	-9.3%
1株当たり 当期純利益	29.03	14.30	26.56	-2.47	-
一株当たり配当額	40.0円	-	40.0円	0円	-
DOE	3.8%	-	4.0%	0%	-

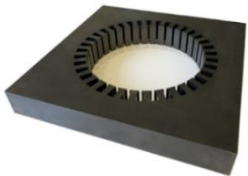


【2027年3月期 利益予想の前提条件】

(百万円未満 切り捨て)

①APT(パラタングステン酸アンモニウム) 価格：3000ドル/10kg ②為替：155円/米ドル

※業績見通しはタングステン価格の変動や価格転嫁の影響など、不確定要素が大きく、変動する可能性あり




# 主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）2027年3月期 業績見通し

産業分類	2026年3月期実績	2027年3月期見通し※
<b>輸送用機械</b>  <p>モーターコア用金型 など</p>	<p>モーターコア用金型の販売が好調に推移したが、一部顧客の海外向けが現地調達化されたことおよび、前期比の反動減により目標未達。</p> <p>目標：29.2億円 実績：28.2億円 達成率：97%</p>	<p>新型モデル投入などの開発案件に加え、ハイブリッド車の量産拡大により、前期並みを見込む。</p>
<b>鉄鋼</b>  <p>圧延ロール など</p>	<p>海外向け熱間圧延ロールが前期の反動減で低調に推移、その後も低調だったため目標未達。</p> <p>目標：27.4億円 実績：23.6億円 達成率：86%</p>	<p>国内向けは前期並みまたはやや減少、海外向け熱間圧延ロールの受注増を見込む。</p>
<b>非鉄金属・金属製品</b>  <p>製缶工具 など</p>	<p>エアコン生産の増加により溝付きプラグは通期ベースで好調。製缶工具は、特定顧客における増設ライン向け補充、開発品の量産展開で好調を維持。</p> <p>目標：21.6億円 実績：21.0億円 達成率：97%</p>	<p>エアコン関連工具・金型および缶器ともに前期並みまたはやや減少を見込む。</p>

※タングステン価格の変動や価格転嫁の影響など不確定要素が大きいいため、2027年3月期の単体ベース産業分類別売上目標は非公表。

全体として、販売数量は前期より減少を見込むが、原材料価格の高騰を受けた価格転嫁により、売上は増加する見込み。

# 主要産業分類別状況（単体ベース、売上高）2027年3月期 業績見通し

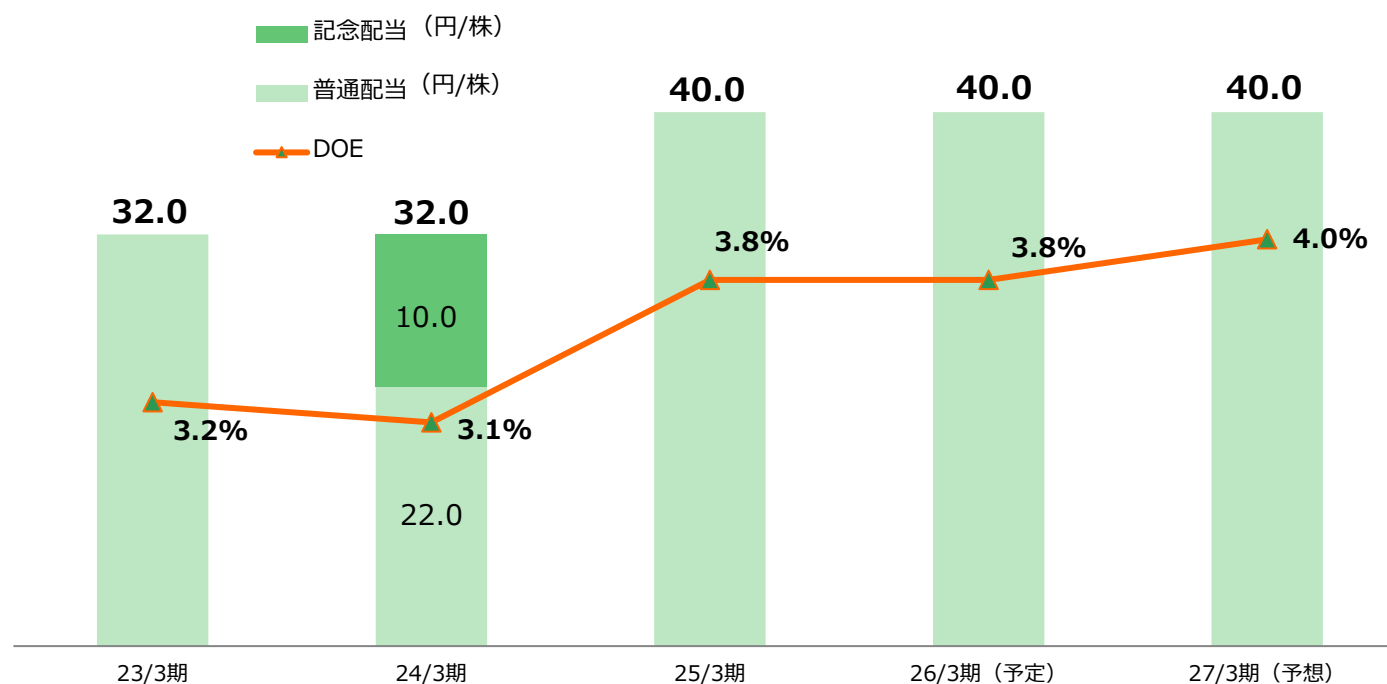
産業分類	2026年3月期実績	2027年3月期見通し
<p><b>生産・業務用機械</b></p>  <p>光学素子成型用金型 など</p>	<p>半導体製造装置向けは、顧客の在庫過多状態で大幅減。光学関連は開発案件が進展したが数量減。高圧関係は、特定顧客の金型寿命の短命化により需要増。</p> <p>目標：21.2億円 実績：19.3億円 達成率：91%</p>	<p>半導体製造装置向けは引き続き低調。光学関連は既存材種からの置き換えや新製品への適用により増加を見込む。高圧関係は、前期に引き続き堅調。</p>
<p><b>電機・電子部品</b></p>  <p>電池向け金型 など</p>	<p>電池は、車載向けの減少分を蓄電池やデータセンター向けなどが補い売上増。磁石は新規型の発注により売上増。半導体封止材向けはパワー系等ボリュームゾーンが低調で回復が遅れる。</p> <p>目標：15.4億円 実績：17.0億円 達成率：110%</p>	<p>電池は車載向け、データセンター向けともに需要増を見込む。封止材は下期以降の回復に期待。</p>
<p><b>金型・工具向け素材</b></p> 	<p>EV関連向けは開発案件や競合の受注制限により受注は急回復したが売上増には至らず。海外向けの超硬素材販売が通期ベースで好調。</p> <p>目標：27.9億円 実績：33.8億円 達成率：121%</p>	<p>原料調達に遅れが生じている銅タングステンの受注見送りが続くなど、タングステンの需給状況や価格改定などの動向により、影響を受ける可能性が高く、見通しの把握が困難。</p>

# 2027年3月期 株主還元・配当

2027年3月期は1株当たり40円を計画

年間配当金  
**40円**

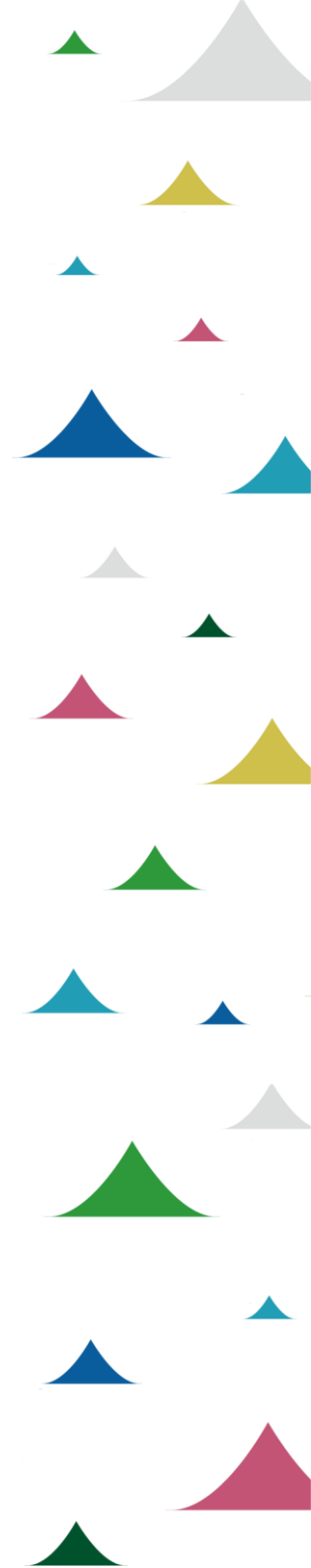
- 2027年3月期までの中期経営計画期間中は、配当の基準を従来の配当性向から株主資本配当率（DOE）に変更するとともにDOEの目標値を4%目途に変更
- 2027年3月期の配当は前期の配当と同額の一株当たり40円を計画



※2026年3月期末配当は、当社第70回定時株主総会の承認を得た場合の1株当たりの配当金となります。

# 04

## 資本コストや株価を意識した 経営の実現

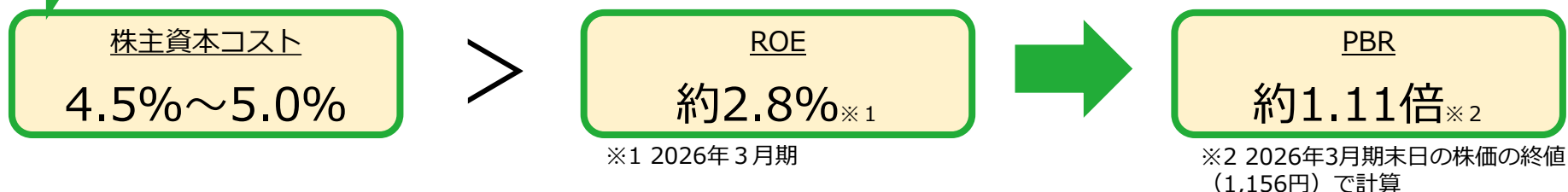


# 資本コストや株価を意識した経営の実現

## 1. 現状分析と課題

- ▶ 当社の株主資本コストは4.5～5.0%程度と認識
- ▶ ROEは売上高増や効率化施策による利益増によって前期比で改善したものの、原材料高騰等による損益構造の悪化等により依然として資本コストを下回っている状況
- ▶ 積極的なIR活動や自己株式の取得を含む株主還元の強化等に努めた結果、株価水準が向上し、PBRは1倍以上を達成。  
ただし、原材料高騰の影響等により収益性は中期経営計画目標に対し未達の状況。

➡ 収益性の改善が最重要課題



指標	目標 (2027年3月期)	2024年3月期	2025年3月期	2026年3月期
ROE	7.0%以上	3.5%	2.1%	2.8%
PBR	1倍以上	約0.66倍	約0.72倍	約1.11倍
DOE	4%目途	2.1% ※3	3.8%	3.8%
参考/株価推移 (期末日終値)	—	687円	754円	1,156円

※3 普通配当の金額で計算。記念増配（一株当たり10円）を含めるとDOEは3.1%。

## 2. 今後の取組みの方針

- ▶ 「中期経営計画2026」に沿って「変化に対応できる企業体質への転換」を果たし、収益性や成長力を向上させる。

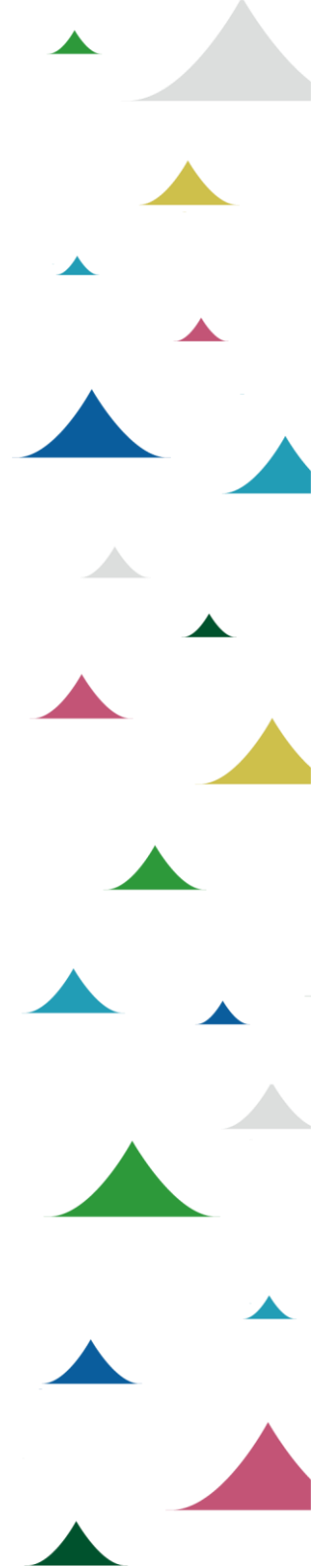


- ▶ 生産部門の自動化推進、新基幹システムの活用等による生産性向上、業務効率化
- ▶ 中国における高付加価値製品への注力、アセアンにおける新規業種への拡販、インド現地法人の事業活動再開
- ▶ 価格戦略の見直し
- ▶ リサイクル事業の拡大や調達先の複線化等による原材料の安定的な調達
- ▶ 省タングステン・コバルト合金に関する業務提携の推進
- ▶ 配当の拡充維持、自己株式取得による株主資本（投資）効率向上

- ▶ IR施策の強化（個人投資家説明会の回数増及び内容拡充等）による認知度、理解度の向上
- ▶ 当社のコア技術である粉末冶金技術と超精密加工技術を基に、成長分野に向けた製品を開発・市場投入
- ▶ 新領域への進出（M&Aを含む）による成長力の強化

# 05

## APPENDIX



# 会社概要（2026年5月現在）

商号	富士ダイス株式会社
所在地	東京都大田区下丸子二丁目17番10号
資本金	164百万円
代表者	代表取締役社長 春田 善和
創業	1949年6月
上場証券取引所	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：6167 [業種：機械]） 2015年6月東証二部に上場、2017年4月東証一部に市場変更
事業目的	超硬合金製の耐摩耗工具・金型の製造販売
連結子会社	新和ダイス株式会社 富士シャフト株式会社 FUJILLOY (THAILAND) CO., LTD. 富士模具貿易（上海）有限公司 PT. FUJILLOY INDONESIA FUJILLOY INDIA PRIVATE LIMITED FUJILLOY MALAYSIA SDN. BHD.
従業員数	1,078名（2026年3月期末時点、連結）



## 超硬耐摩耗工具市場でトップシェア

国内超硬耐摩耗工具業界では当社は長期に亘り、トップシェアを堅持  
多品種少量の高付加価値製品の販売が主で、販売価格は安定して推移

業界シェア  
30%以上

## 長期的成長を担う高い素材開発力×加工技術力

粉末冶金技術を活かし、市場ニーズに応える新材料の開発力  
新鋭設備研究と加工方法の最適化による匠の技と最新テクノロジーの融合

コア技術  
・粉末冶金技術  
・超精密加工技術

## 開発力-技術力-営業力が競争力の源泉

お客さまの個別ニーズをカスタマイズできる直販体制  
幅広い業種との安定かつ多くのお客さまとの取引実績  
設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査までの一貫生産体制

取引社数  
約3,000社  
(グループ連結)

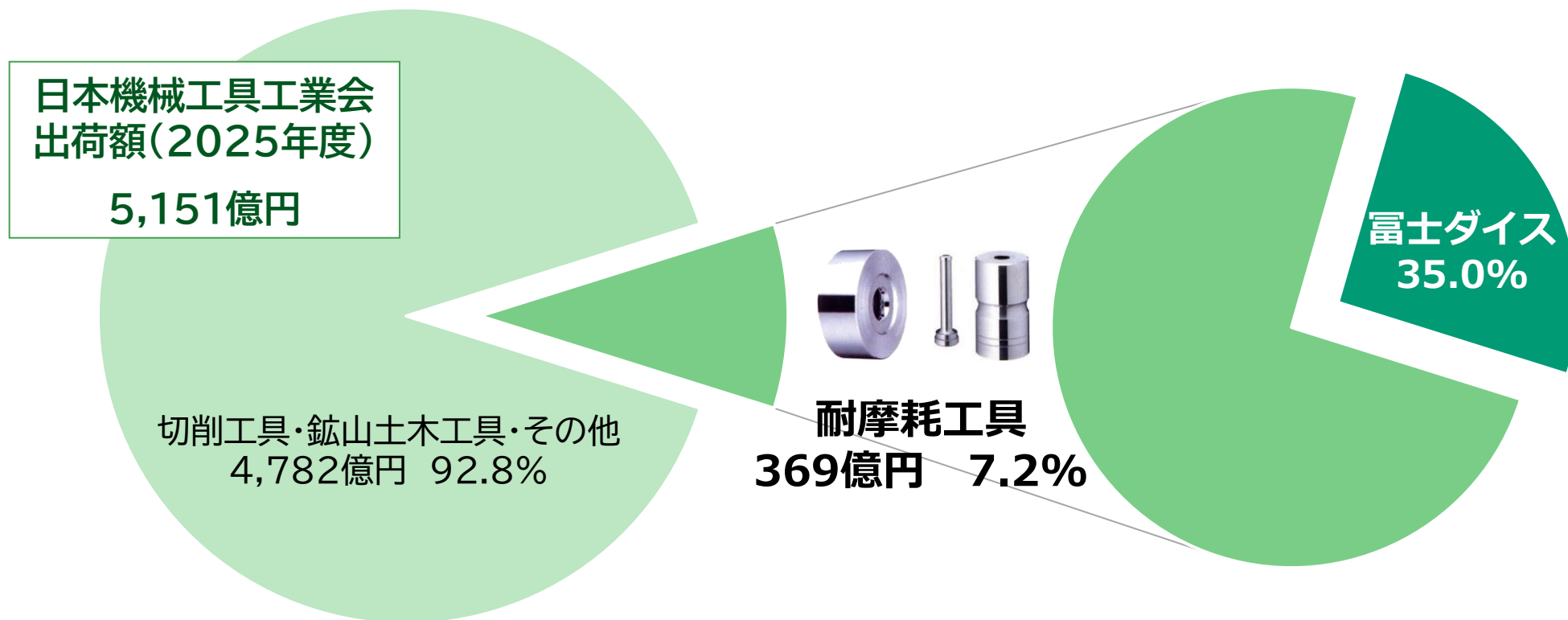
## 財務基盤：黒字経営を継続し、高い自己資本比率を維持

ネットキャッシュ 7,107百万円  
フリーキャッシュフロー 436百万円

自己資本比率  
79.6%  
(2026年3月末時点)

(2026年3月末・百万円未満 切り捨て)

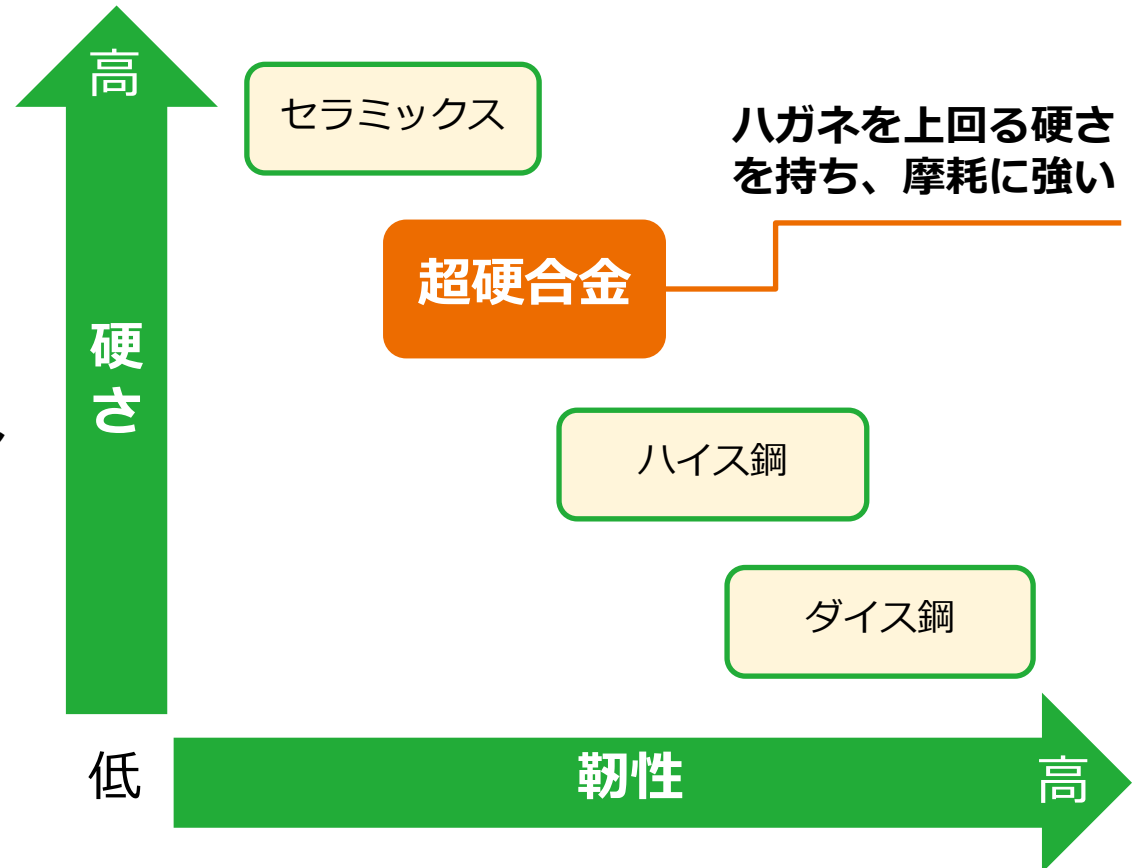
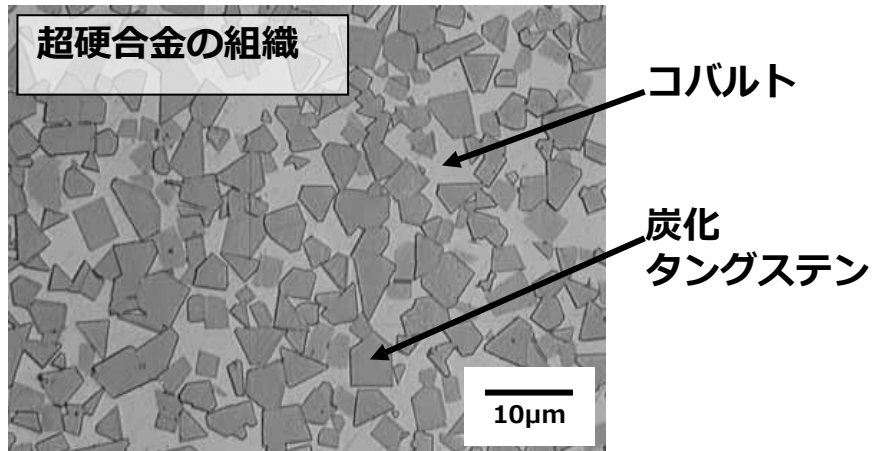
# 超硬工具の国内市場規模（日本機械工具工業会調べ）



**耐摩耗工具において、長年に亘ってトップシェアを堅持**  
**当社の超硬工具の売上 129億円** (117億円/2024年度)

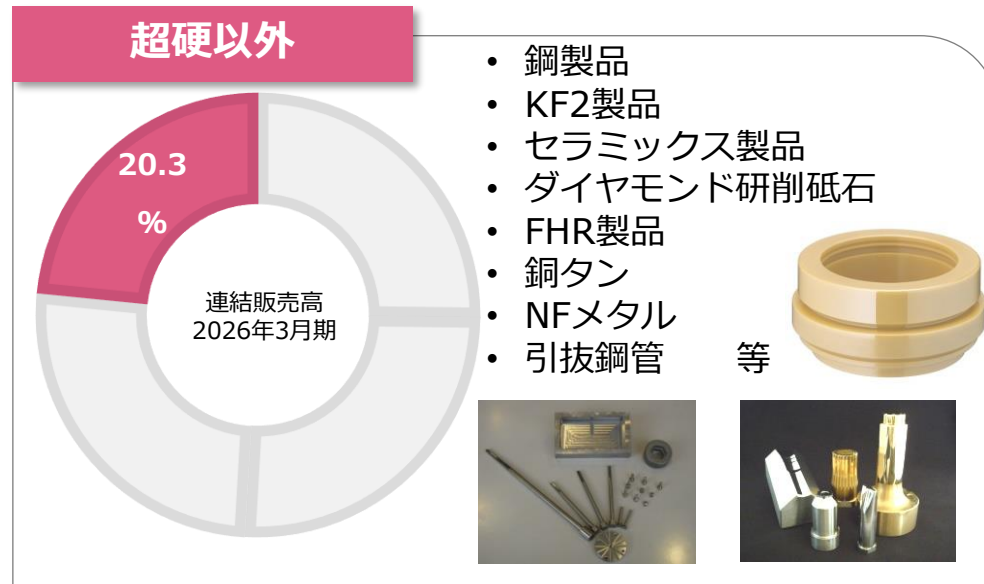
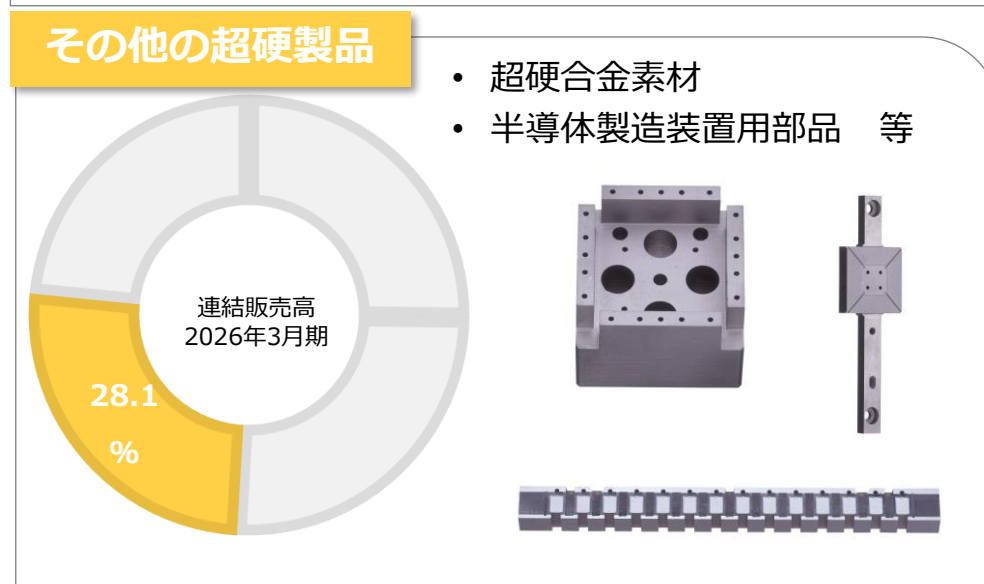
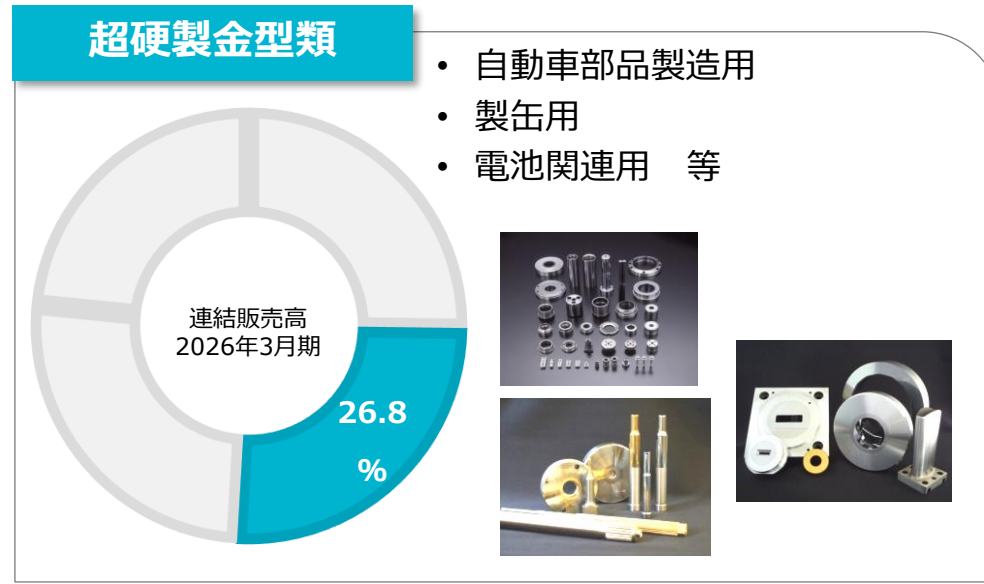
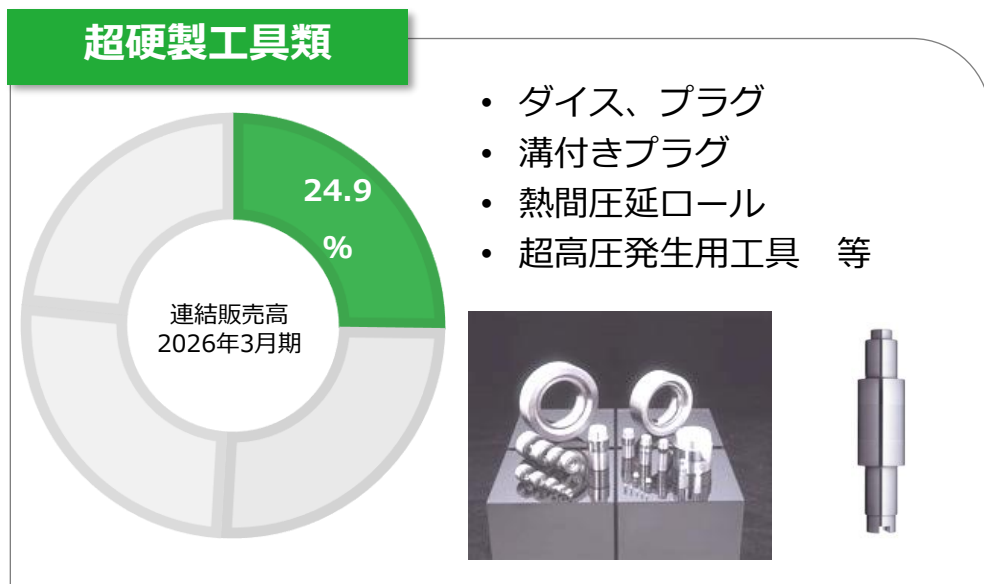
# 超硬合金とは

- 炭化タングステンなどの**硬質炭化物**とコバルトなどの**金属**を組み合わせた**金属材料**
- ステンレスや鋼鉄を凌ぐ**硬さ**を誇り、**圧縮強さ**、**耐摩耗性**に優れる
- **変形しにくく**、高い精度が求められる**金型**や**工具の材料**として適している
- 金属の粉末を型に入れ圧縮して成型し、融点より低い温度で長時間焼いて固める「**粉末冶金法**」で製造される



# 事業内容 製品区分

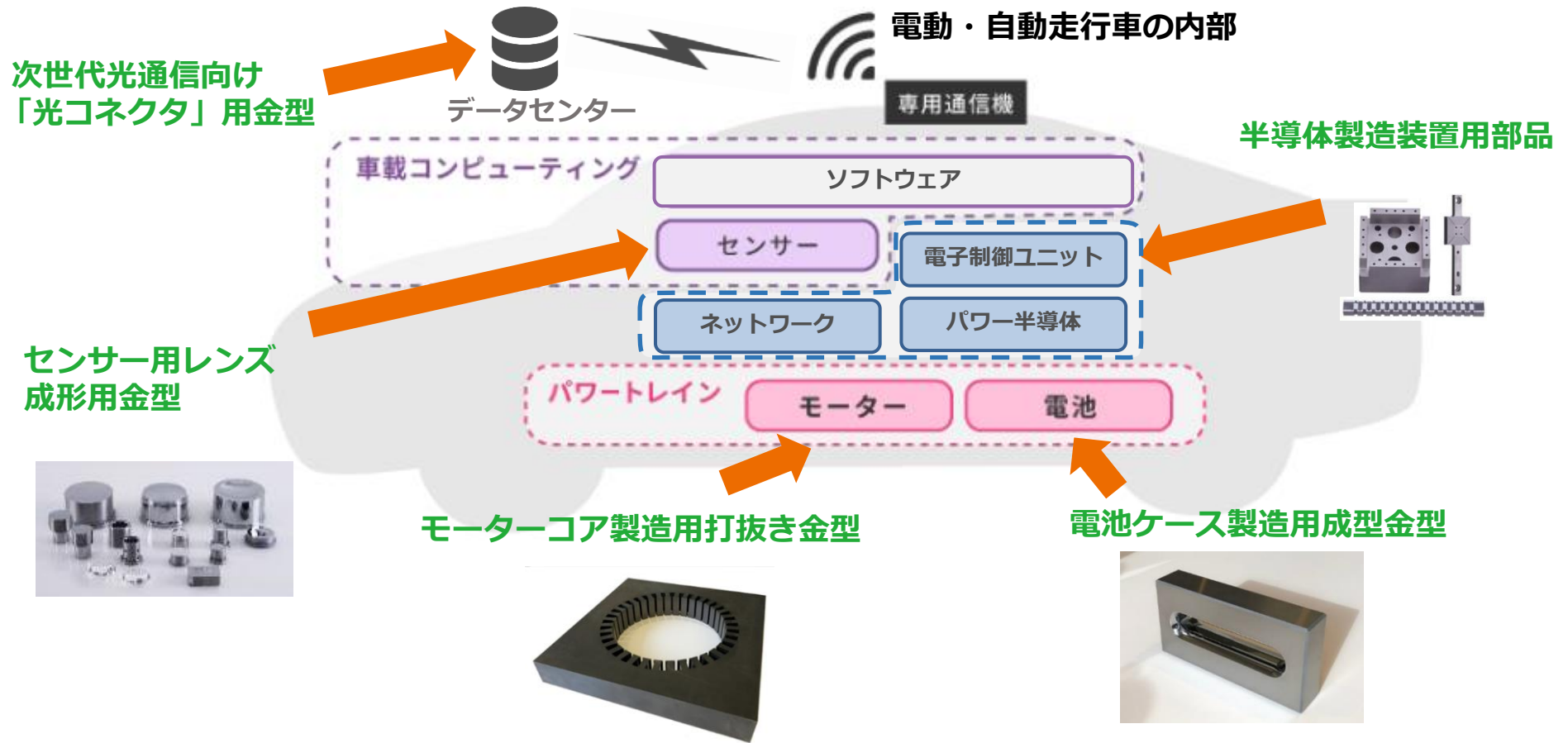
## ■ 超硬合金製を中心とした工具・金型（耐摩耗工具）製造に特化



# 成長分野と富士ダイスの関係

## 次世代自動車・半導体・光通信

自動運転向けセンサー用光学部品、次世代光通信分野、半導体製造装置分野に、  
当社の工具・金型・素材が貢献



電動・自動走行車の内部 図の引用元：国立研究開発法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）のホームページ

# ものづくりを支える富士ダイスの製品



上記以外にも、富士ダイスの製品は、鉄道架線・電線などのインフラ設備、人工ダイヤモンドの製造や新素材の開発など、様々なシーンでものづくりを支えている

# 代表的な製品例

## 引抜・押出・圧延加工をする工具

輸送用機械、建築材料やインフラ関連の設備等へ使用

### 当社製品



ダイス・プラグ



ロール

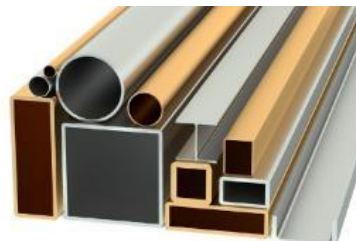
### 成形部材



パイプ



線材



異形管

### 最終製品例



エアコンなどの家電



飛行機などの輸送機器



鉄道架線・電線など  
インフラ設備

# 代表的な製品例

## 飲料缶・一般食缶を製造する工具・金型

アルコール飲料や清涼飲料等の飲料缶を作る金型

## 光学素子を製造する金型

一眼レフ・通信用・監視カメラ・自動運転用カメラセンサーのレンズを生産する金型

### 当社製品



製缶工具

### 最終製品例



飲料缶・一般食缶

### 当社製品



ガラスレンズ成形用金型

### 最終製品例



監視カメラ

カメラレンズ

自動運転用カメラセンサー

# 代表的な製品例

## 鍛造用工具・金型

二輪車や四輪車、各種製造機械等の部品を作る金型

## 高圧工具

人工ダイヤモンドの製造、新たな素材の開発、地球の内部環境研究に用いる工具

### 当社製品



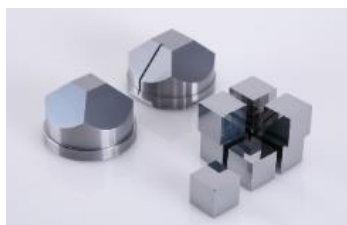
鍛造金型

### 最終製品例



自動車・各種機械用部品

### 当社製品



高圧工具

### 最終製品例



人工ダイヤモンド・  
新素材開発

地球物理学研究

# 一貫生産体制により様々なオーダーに対応

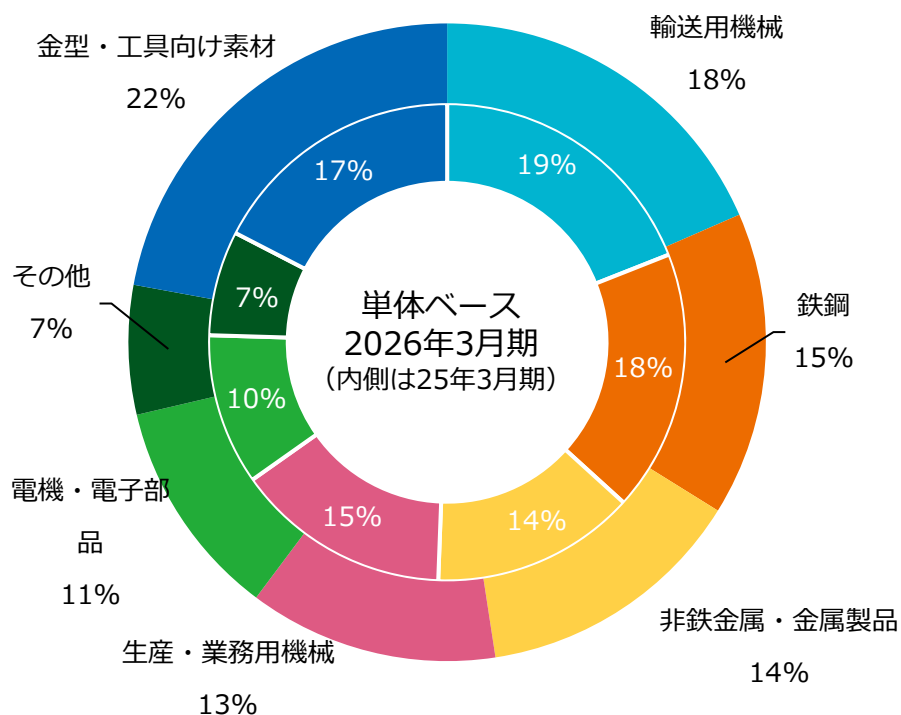
- 設計から原料粉末の調製、焼結、機械加工、製品検査まで一貫した受注生産体制
- 2つのコア技術、高度な粉末冶金技術と超精密加工技術により様々なオーダーに対し柔軟に対応が可能（多品種・少量生産）



# 受注生産・直販体制、取引先は約3千社に上る

少量多品種の顧客毎のカスタムメイドの受注生産・直接販売を行う  
顧客との強固なネットワークにより、取引社数は約3千社、業種も幅広い  
特定の業界動向に影響されない安定性が強み

【顧客産業分類区分売上構成(%)】



【営業・生産拠点 (2026年3月末時点)】

【国内】

- 生産・営業拠点 5ヶ所
- 生産拠点 2ヶ所
- 営業拠点 5ヶ所

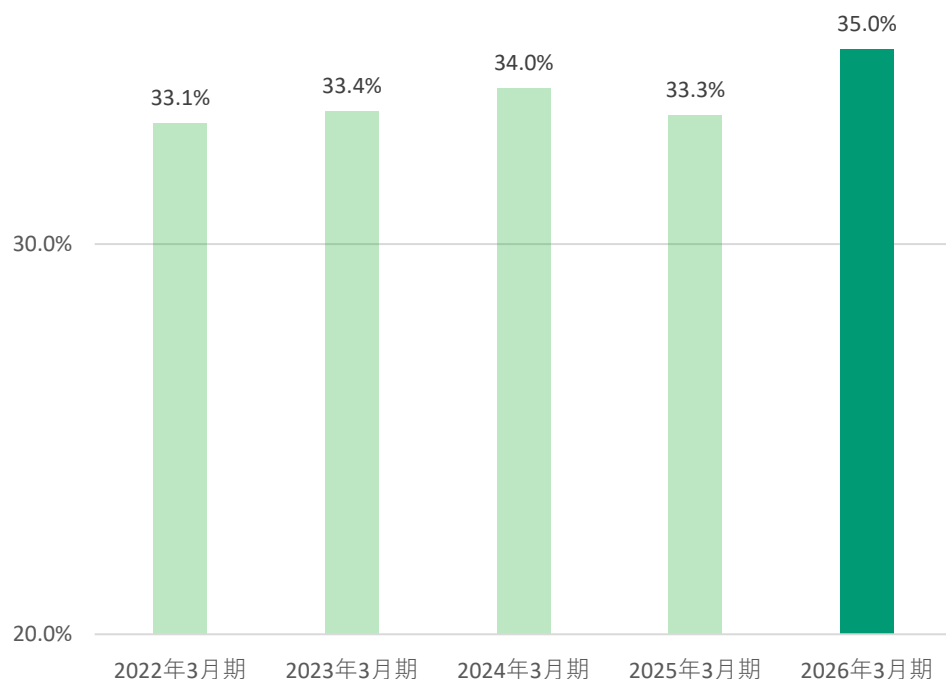
【海外】

- 生産・営業拠点 2ヶ国  
タイ・インドネシア
- 営業拠点 3ヶ国  
中国・マレーシア・インド

# 耐摩耗工具専門国内トップメーカー

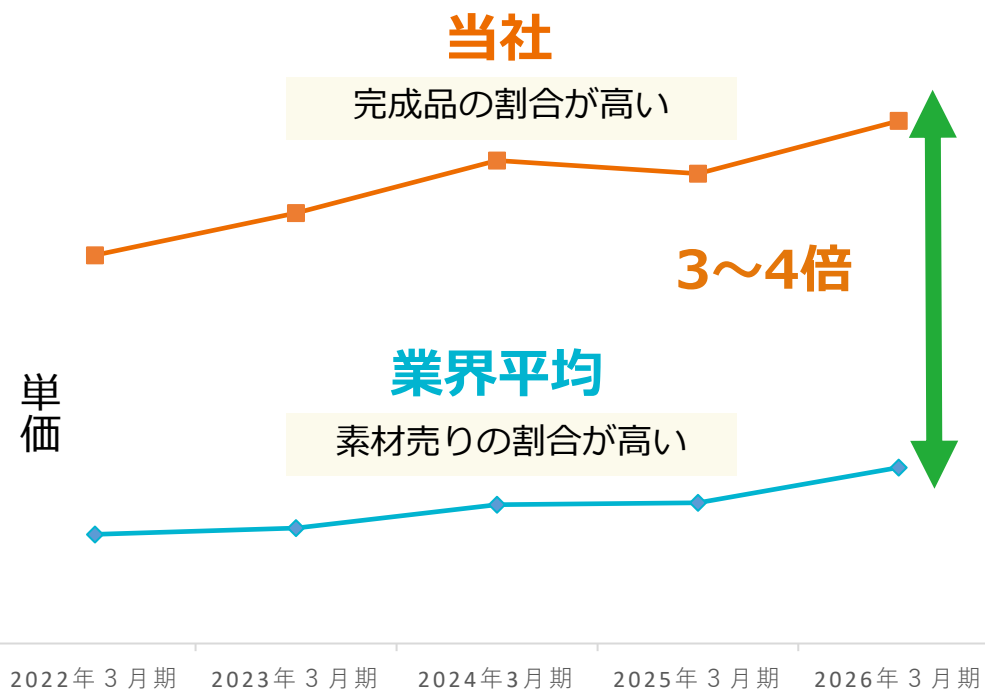
国内超硬耐摩耗工具業界で当社は**長期に亘り、トップシェア（30%超）**を堅持  
少量多品種の**高付加価値製品**の販売が主で、販売価格は**安定して推移**

## 超硬耐摩耗工具・国内出荷額シェアの推移



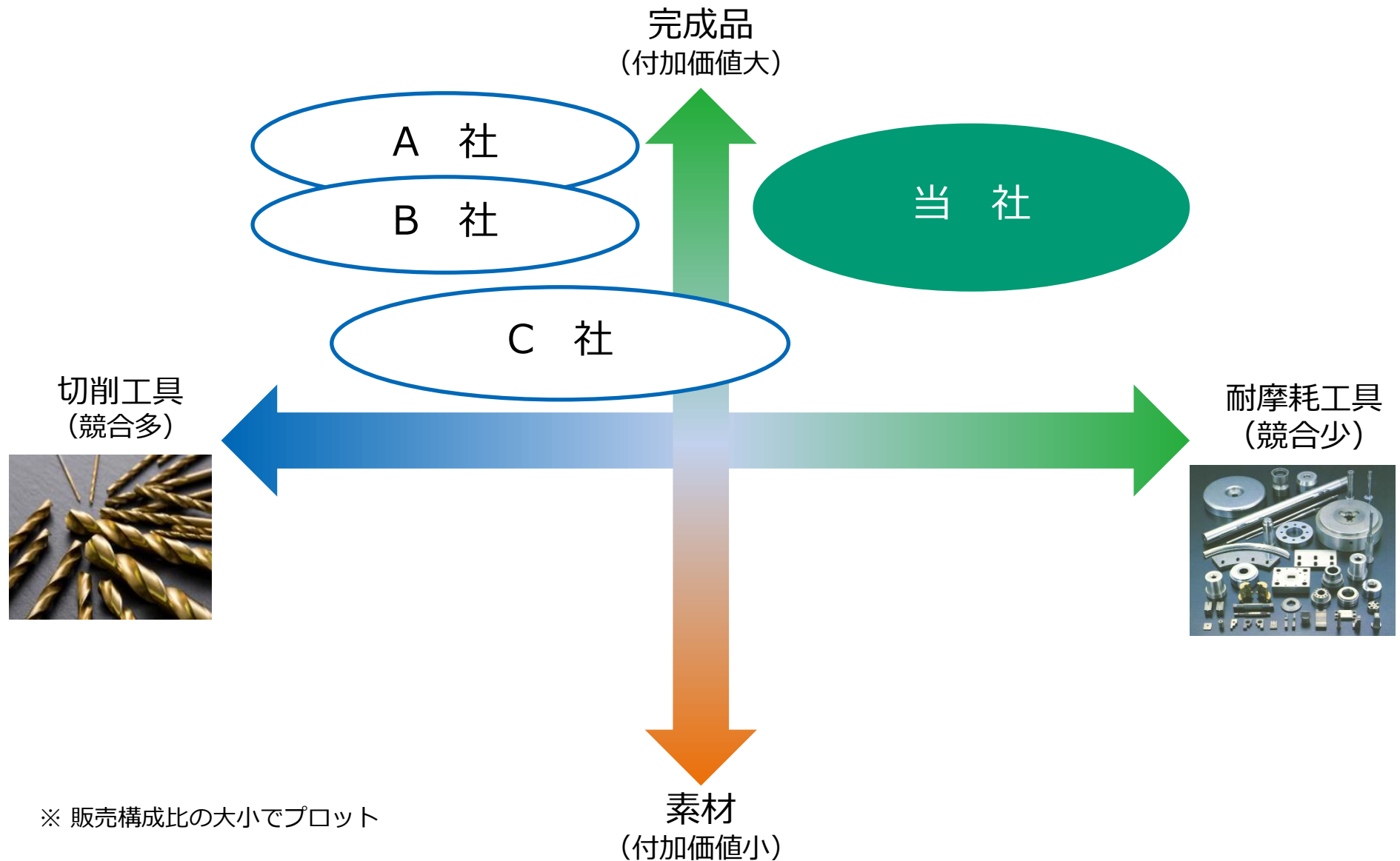
※2021年3月期は新型コロナウイルスの影響が大きいため除外

## 製品の平均単価の推移



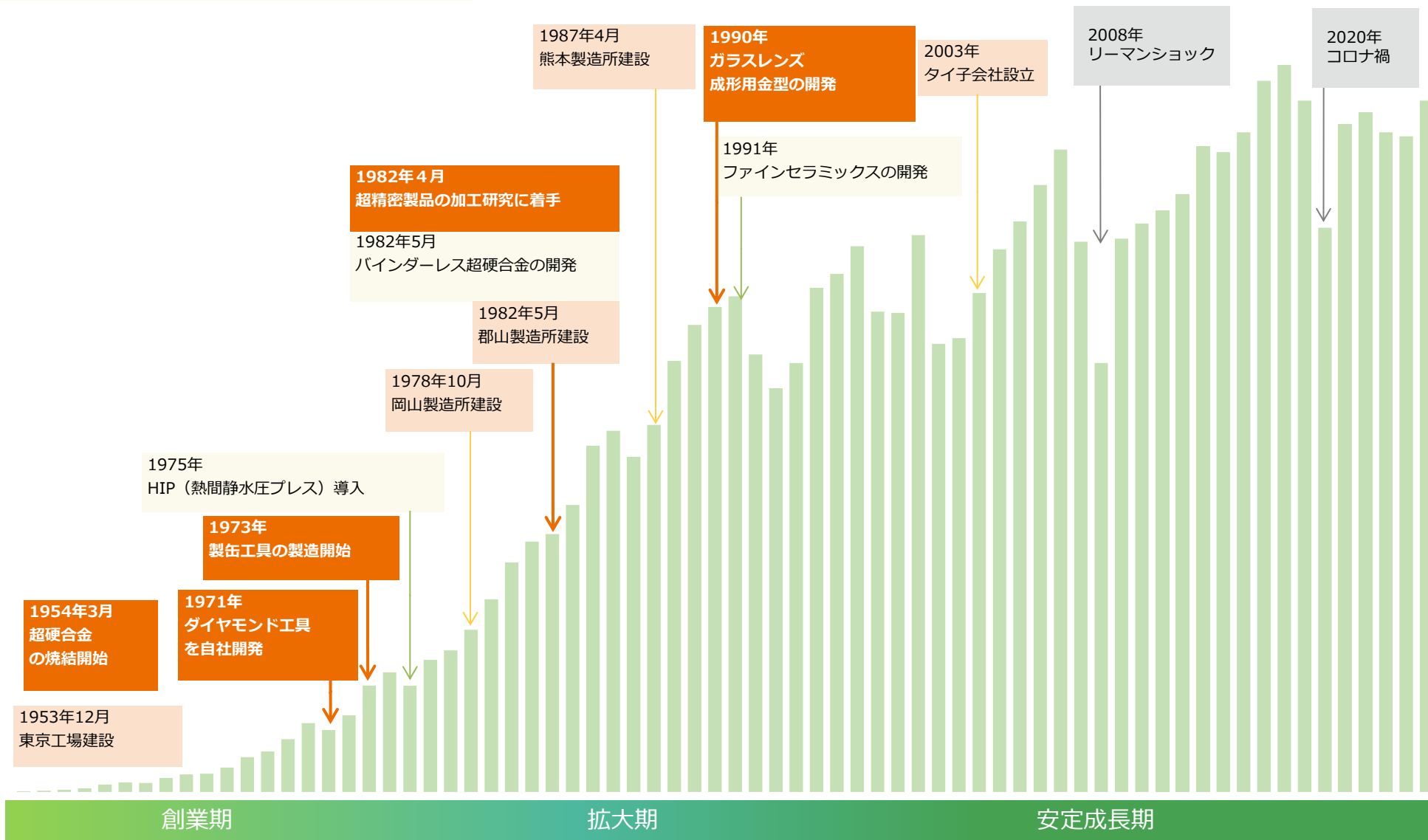
出所：日本機械工具工業会

# 工具業界 ポジショニングマップ（上場企業）



# 主な沿革と売上高推移

## 創業以来、黒字経営を継続

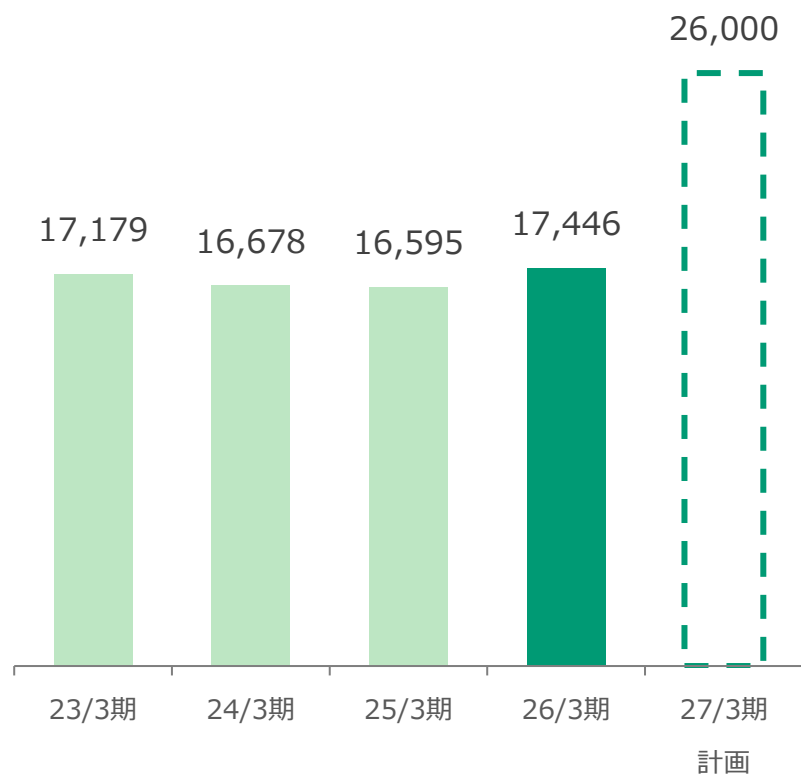


(注) 2012年度以降は連結売上高

# 業績の推移 1/3

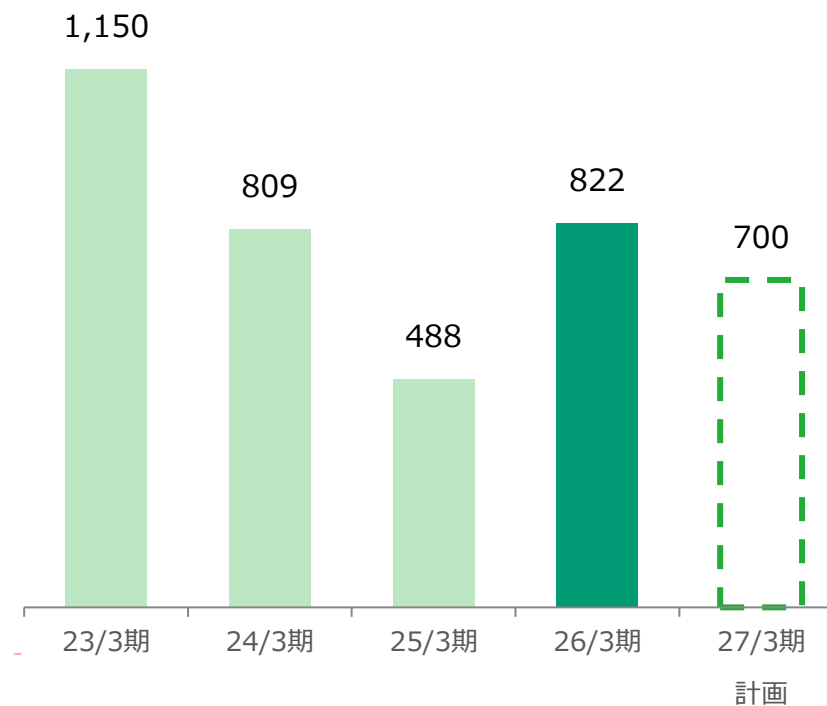
## 売上高

(百万円)



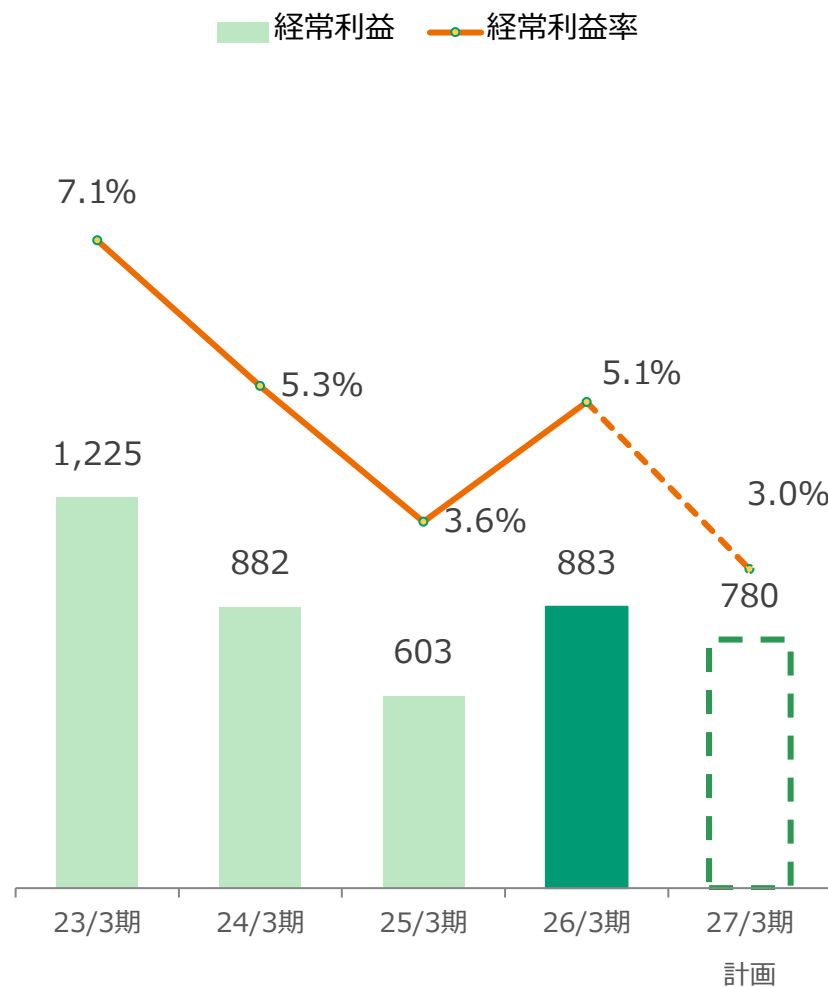
## 営業利益

(百万円)



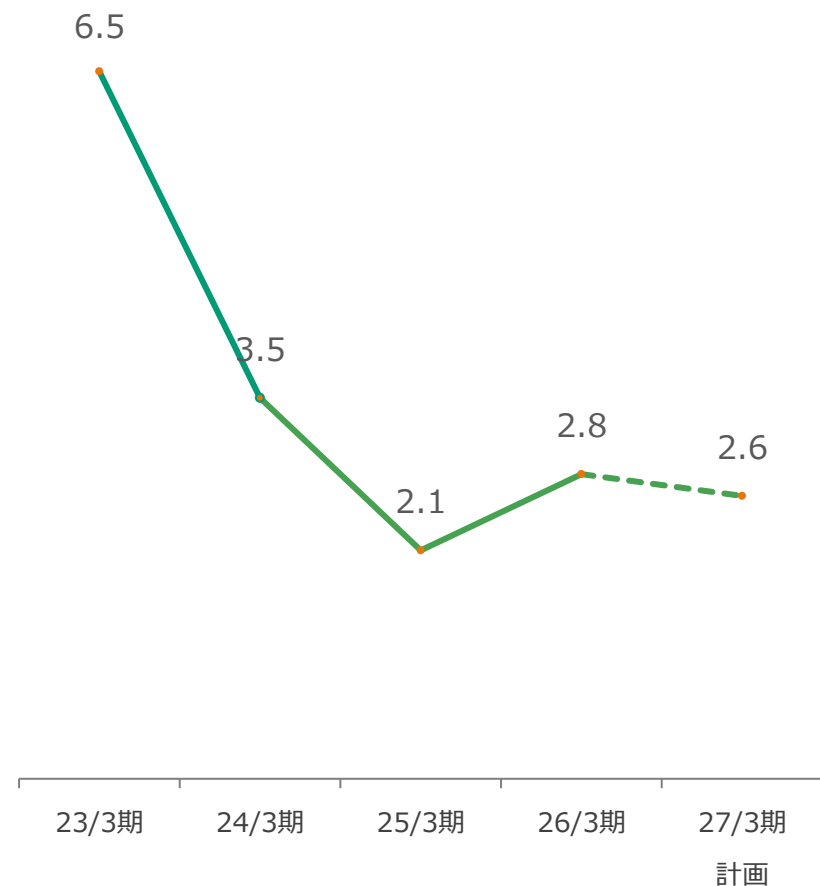
## 経常利益

(百万円)



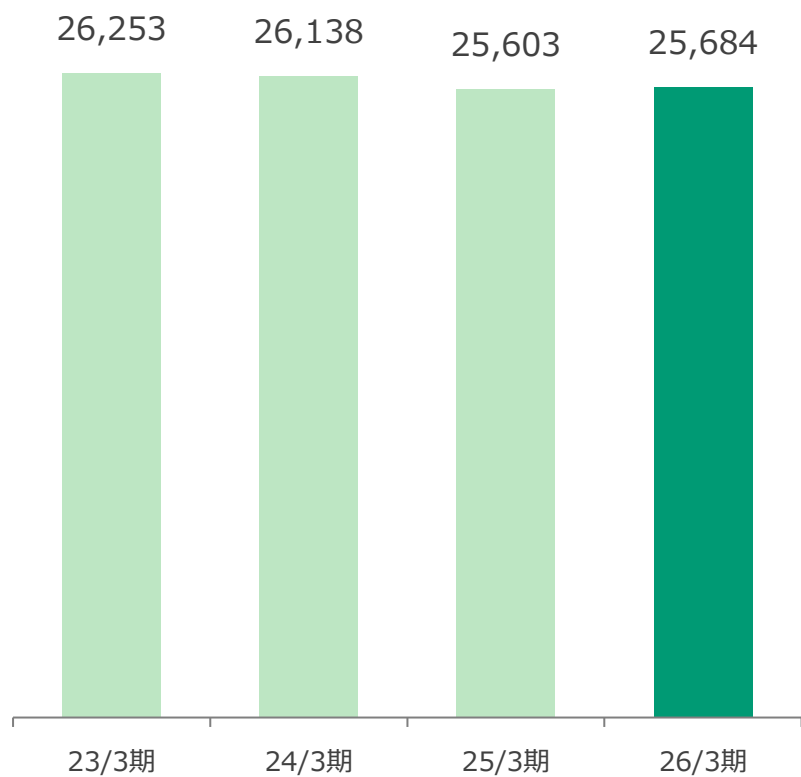
## ROE

(%)



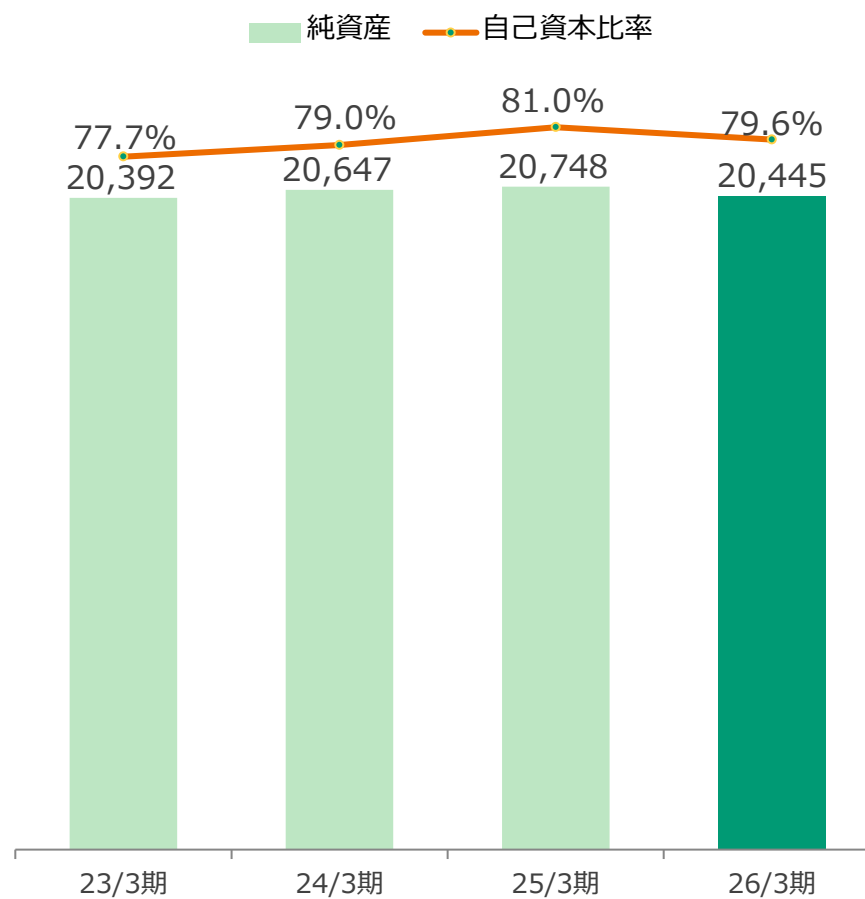
## 総資産

(百万円)

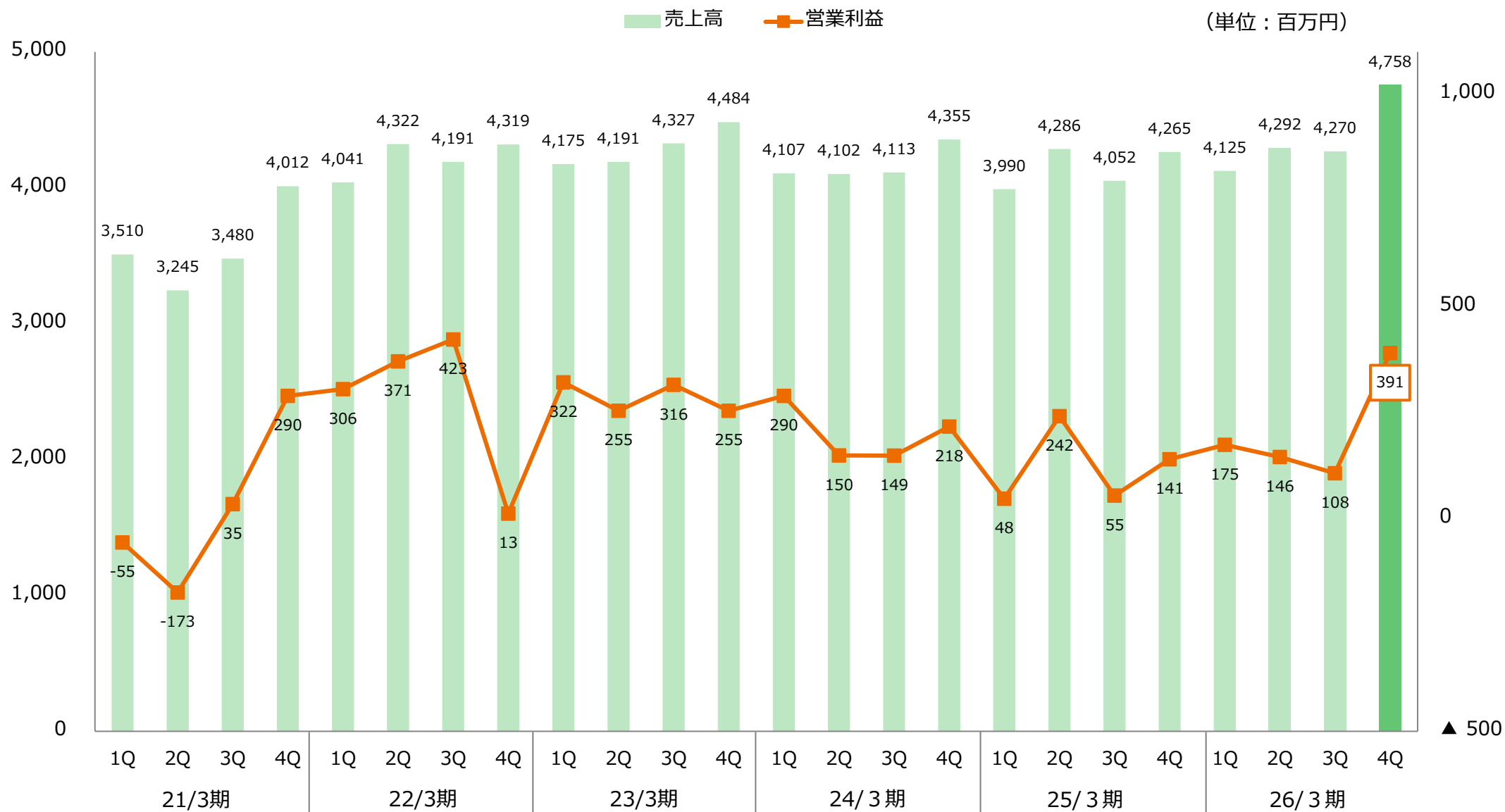


## 純資産

(百万円)



# 連結四半期業績推移



## 免責事項について

---

当資料は、富士ダイス株式会社の現状をご理解いただくことを目的として、作成したものです。当資料に記載した内容は、一般的に認識されている経済・社会等の情勢及び当社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成しており、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更する可能性があります。

また、当資料には見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものがあり、当資料に記述されている内容とは異なる結果を生ずる不確実性（市場、金利、為替の変動といった国内外の経済状況等）が含まれております。今後、新たな情報や出来事等が発生した場合、当社は本資料の更新・修正を行う義務を負うものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身の判断でなさるようお願いいたします。

尚、情報の掲載には細心の注意を払っておりますが、情報の誤りや改ざん、データのダウンロード等で被ったいかなる損害についても、当社は一切責任を負うものではありません。